

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	大阪電気通信大学
設置者名	学校法人大阪電気通信大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通科目	学部等 共通科目	専門科目	合計		
工学部	電気電子工学科	夜・通信		12	18	30	13	-
	電子機械工学科	夜・通信		12	22	34	13	-
	機械工学科	夜・通信		12	5	17	13	-
	基礎理工学科	夜・通信		12	8	20	13	-
	環境科学科	夜・通信		4	11	15	13	-
	建築学科	夜・通信		6	13	19	13	-
情報通信工学部	情報工学科	夜・通信		12	11	23	13	-
	通信工学科	夜・通信		14	10	24	13	-
建築・デザイン学部	建築・デザイン学科	夜・通信		4	4	8	13	-
医療健康科学部	医療科学科	夜・通信		6	15	21	13	-
	理学療法学科	夜・通信		6	10	16	13	-
	健康スポーツ科学科	夜・通信		6	15	21	13	-
総合情報学部	デジタルゲーム学科	夜・通信		6	46	52	13	-
	ゲーム＆メディア学科	夜・通信		6	46	52	13	-
	情報学科	夜・通信		4	16	20	13	-

(備考) 環境科学科、建築学科は、2024 年度以降の学生募集停止。 工学部、情報通信工学部、総合情報学部は1年次は新課程、2年次から4年次は旧課程。 建築・デザイン学部は 2024 年 4 月に新設置。 医療科学科の1、2年次は新課程、3、4年次は旧課程。
--

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

HP に掲載。 https://www.osakac.ac.jp/about/educational-information/work-experience/

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	大阪電気通信大学
設置者名	学校法人大阪電気通信大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

HPに掲載。
<https://www.osakac.ac.jp/corp/about/member/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	元大学学長 元企業代表取締役執行役員社長 理事長	2024/3/8 ～ 2027/3/7	法人業務総理
非常勤	同窓会組織会長	2024/3/8 ～ 2027/3/7	地域連携担当
非常勤	元大学学長	2024/3/8 ～ 2027/3/7	大学教育・研究 (情報教育)担当
非常勤	同窓会組織役員	2024/3/8 ～ 2027/3/7	産学連携担当
非常勤	企業代表取締役会長CEO	2024/3/8 ～ 2027/3/7	地域連携担当
非常勤	特定非営利活動法人 NPO法人理事長	2024/3/8 ～ 2027/3/7	グローバル化推進 担当
非常勤	元大学副学長	2024/3/8 ～ 2027/3/7	大学教育・研究担当
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	大阪電気通信大学
設置者名	学校法人大阪電気通信大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) ○授業計画書の作成過程 各教員の作成後、各学科の主任、教務委員及び学部長等による内容の点検を経ている。 ○授業計画書の作成・公表時期 1月から2月頃にシラバスが作成され、点検を経て、履修登録開始の約1週間前(3月下旬)までに下記URLで公表している。 【全学部共通】	
授業計画書の公表方法	HPに掲載。 https://myportal.osakac.ac.jp/m/websyllabus/search.xhtml
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。 (授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) シラバスにおいて「評価方法と評価観点」の項目を置き、「定期試験またはレポート試験」、「小テスト、小論文」、「グループワーク」、「プレゼンテーション」、「レポート、宿題」、「授業での姿勢(ノート、質疑など)」、「作品、パフォーマンス(実技、実演)」といった評価方法を示し、それぞれについて、「知識・理解力」、「応用力」、「コミュニケーション力」、「態度・志向性」、「創造力」といった評価観点及び評価割合を示している。 このように、評価方法と評価観点ごとに評価の割合をあらかじめ示し、学修成果をはかるため試験等により厳格かつ適正な単位授与を実施している。 【全学部共通】	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) ○客観的な指標(GPA)の設定の算出方法 成績表示に用いる Grade Point は、次のとおり。 評点:Grade Point 100～90 点: 4 89～80 点: 3 79～70 点: 2 69～60 点: 1 59 点以下, 未受験等による評価不能: 0 科目の単位数 × その科目で得た Grade Point $\text{GPA(小数点第 4 位を四捨五入)} = \frac{\Sigma(\text{科目ごとに取得した Grade Point の総和})}{\Sigma(\text{履修登録単位数})}$ 合格・不合格をもって表す科目は算出の対象から除外。 最低履修登録単位数に満たない場合は順位付けの対象外。 【全学部共通】 ○客観的な指標(GPA)の適切な実施状況 上記の算出方法に基づき, 前期・後期の各値, 累積の値を GPA 順位とともに学業成績表に記載し, 学生に配付している。 【全学部共通】	
客観的な指標の算出方法の公表方法	HP に掲載。 https://www.osakac.ac.jp/campuslife/class-related/class/testing-results.php

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) ○卒業の認定に関する方針の具体的な内容 本学では以下の「全学統一の学位授与方針」をはじめ、学部・学科単位でディプロマ・ポリシーを定め、公表している。 ディプロマ・ポリシー (全学統一の学位授与方針) 大阪電気通信大学は、専門の学術を教授研究し、知的並びに道徳的な完成を期し、更に応用能力を展開させ得る人材の育成を目的としています。そのため、大学の基本理念に掲げる「手と頭と心」に対応する次の 3 つの能力を修得していることを全学共通の学位授与の要件としています。 (1)【手】手が動かせること(行動する力):学修した知識や技能を組み合わせ活用し、与えられた課題に着手できる力 (2)【頭】画が描けること(考える力):自ら課題をみつけ、問題解決のための計画・シナリオを描き実行することができる力 (3)【心】コミュニケーションができること(協働する力):人の考えを聞いて理解し、自分の考えも適切に人に伝えられる力 更に、社会人としての責任感や倫理観を身に付けた者に対して「学士(所定分野)」の学位を授与します。 ○卒業の認定に関する方針の適切な実施状況 本学では上記のとおり全学・学部・学科単位で定められたディプロマ・ポリシー及び学生の修得単位数をもとに、学部教授会において卒業要件※の充足状況を確認し、卒業の可否を審議する。なお、開講科目それぞれがディプロマ・ポリシーとどのように関係するかは、科目ごとのシラバスの目的欄に記載されている。 【全学部共通】 ※本学の卒業要件は次の通り。 4 年以上在学し、必修科目(卒業研究・卒業制作を含む)・選択必修科目・選択科目の単位数について、学科ごとに指定された 128 単位(工学部、情報通信工学部、建築・デザイン学部及び総合情報学部は、2024 年度入学者から 124 単位)以上修得し、次の単位数を修得していること	
学部卒業の認定に関する 方針の公表方法	HP に掲載。 https://www.osakac.ac.jp/about/policy/faculty/diploma/

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	大阪電気通信大学
設置者名	学校法人大阪電気通信大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	学校法人のホームページにて公表している。 https://www.osakac.ac.jp/corp/about/financial-data/
収支計算書又は損益計算書	学校法人のホームページにて公表している。 https://www.osakac.ac.jp/corp/about/financial-data/
財産目録	学校法人のホームページにて公表している。 https://www.osakac.ac.jp/corp/about/financial-data/
事業報告書	学校法人のホームページにて公表している。 https://www.osakac.ac.jp/corp/about/financial-data/
監事による監査報告(書)	学校法人のホームページにて公表している。 https://www.osakac.ac.jp/corp/about/financial-data/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: HPに掲載。 https://www.osakac.ac.jp/about/self-assessment/
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名	工学部・情報通信工学部・建築・デザイン学部・医療健康科学部・総合情報学部
教育研究上の目的 (公表方法：HP に掲載。 https://www.osakac.ac.jp/about/educational-information/img/purpose.pdf)	
(概要)	
工学部	
電気電子工学科	電気電子工学科は、電気電子情報社会を支える 5 分野(半導体デバイス、電気電子回路、計測制御、情報技術、電力)について基礎から学び、高度情報化社会を支える基盤技術である電気電子工学に含まれる多くの技術分野のうち、学生自身が適性ある分野を講義・実習を通して見極め、自らの目標を設定したうえで、多彩に配置された実験・演習を通して社会で活躍できる技術力を修得した人材を育成することを目的とする。
電子機械工学科	電子機械工学科は、ロボットや IoT、自動運転に代表される「メカトロニクス」の基礎である機械、電気電子、計測制御、情報の 4 分野の知識を教授すると共に、学生の適性に即した専門性の高い実験・実習による実践的な深化教育を通して、将来の超スマート社会の実現を担うメカトロニクスエンジニアを育成することを目的とする。
機械工学科	機械工学科は、社会活動の基盤を支えるモノづくりに必要不可欠な機械工学の専門知識とそれを活かすための技術を総合的に教授することによって、国内外の産業界で広く活躍できる機械技術者を育成することを目的とする。
基礎理工学科	基礎理工学科は、広範な科学知識、理数系的な思考力、高いコミュニケーション能力を兼ね備えた理数系ジェネラリストとして現代の社会に広く貢献する技術の獲得、また、人の健康維持に関与する食品に関する技術の基礎及び応用力の包括的な教授による「食環境」を守る技術の獲得により、未来に貢献しうる専門的な技術者・研究者や教育者(数学・理科教員等)を育成することを目的とする。
情報通信工学部	
情報工学科	情報工学科は、人間の活動に不可欠な「情報」を扱うシステムを作り出すための基盤となるコンピュータハードウェア・ソフトウェア・ネットワークに関わる知識と技術を、数理的な知識体系に基づいて、基礎から応用に至るまで実学教育を通して教授することにより、広く社会及び産業界で活躍できる専門的人材の育成を目的とする。
通信工学科	通信工学科は、情報通信社会を支える 3 要素(ブロードバンド・マルチメディア・インターネット)の技術について基礎から教授することにより、情報化社会の発展に貢献する通信のスペシャリストの育成を目的とする。

建築・デザイン学部

建築・デザイン学科

建築・デザイン学科は、すべての人々が安全で快適に生活できる社会を支える都市と建築、インテリアにいたる幅広いスケールの実空間や、デジタル技術により構築された情報空間など、現実と仮想を問わない、人間を取り巻くありとあらゆる空間の設計・造形と構築に関する知識と技術を講義する実学教育を通じて、学生の人間的成長を支援し、広く社会及び産業界で活躍でき、持続可能な社会の発展に貢献することができる専門的人材の育成を目的とする。

医療健康科学部

医療科学科

医療科学科は、安心・安全な医療・健康を実現するために、医学及び工学を基盤とした医療健康科学について教授研究し、生体計測とデータ処理技術に精通した知能情報エンジニア、医療健康機器の開発や医療安全管理技術に深い理解を有する医療機器のスペシャリスト、臨床現場に貢献できる人間力・応用力を有した臨床工学技士を育成することを目的とする。

理学療法学科

理学療法学科は、責任感と豊かな人間性、論理的思考の基礎となる科学的素養とともに、最新の医療知識と技術を備えた人材を育成することを目的とする。

健康スポーツ科学科

健康スポーツ科学科は、科学的な視点を持ち、基礎医学やスポーツ科学・健康科学および情報処理技術の知識や技術を修得する。これにより、健康のためのライフスタイルの提言と実践的な指導ができる健康づくり運動や生涯スポーツの指導者の育成、および保健体育科教員や競技スポーツ指導者の育成を目的とする。

総合情報学部

デジタルゲーム学科

デジタルゲーム学科は、デジタルゲームを軸とする主に対話的なエンタテインメントコンテンツ分野の学際的研究や制作を通して、幅広い意味でのエンタテインメントに関する高度な知識と技術の修得を支援し、協調性とコミュニケーション能力を持って、広く社会及び産業界で継続的に貢献できる人材を育成することを目的とする。

ゲーム&メディア学科

ゲーム&メディア学科は、エンタテインメントコンテンツの企画・制作・教育を軸とするデジタル分野の学際的研究や制作を行い、関連するメディアの幅広い知識と高度な制作技術を修得し、それらのコンテンツの意義や魅力を広く社会に発信することでビジネスにつなげ、社会で継続的に貢献できる人材を育成することを目的とする。

情報学科

情報学科は、進化し続ける ICT や IoT 技術の基盤となる知識の修得、即戦力となり得る実践力の獲得、コミュニケーション能力等を中心とした社会性の向上の 3 項目を教育目標とし、情報のスペシャリストとして社会で活躍できる人材の育成を目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針

(公表方法：HP に掲載。<https://www.osakac.ac.jp/about/policy/faculty/>)

(概要)

(全学統一の学位授与方針)

大阪電気通信大学は、専門の学術を教授研究し、知的並びに道徳的な完成を期し、更に応用能力を展開させ得る人材の育成を目的としています。そのため、大学の基本理念に掲げる「手と頭と心」に対応する次の 3 つの能力を修得していることを全学共通の学位授与の要件としています。

(1)【手】手が動かせること(行動する力):学修した知識や技能を組み合わせ活用し、与えられ

た課題に着手できる力

(2)【頭】面が描けること(考える力):自ら課題をみつけ、問題解決のための計画・シナリオを描き実行することができる力

(3)【心】コミュニケーションができること(協働する力):人の考えを聞いて理解し、自分の考えも適切に人に伝えられる力

更に、社会人としての責任感や倫理観を身に付けた者に対して「学士(所定分野)」の学位を授与します。

◎工学部

(工学部統一の学位授与方針)

工学部は、産業社会の基盤である総合的な工学技術を支え発展させるために、工学技術の基礎知識および応用に関する実学教育を通じて、学生の学修成果の向上および学修目標の達成を支援し、広く社会および産業界で活躍できる専門的人材を育成することを目的としています。そのために、以下の内容をバランス良く学修して所定の単位を修め、本学の基本理念に掲げる「手と頭と心」に対応する次の3つの能力を修得した者に対して「学士(工学)」の学位を授与します。

(1)【手】豊かな人格形成および社会に貢献する人材の基盤となる知識と教養を養い、自律的かつ意欲的なキャリア形成を目指した総合的能力。

(2)【頭】最先端の技術革新にも対応できる専門的知識と技能・技術とそれを用いた問題解決能力。

(3)【心】社会に対する責任と貢献を考え、他者と協働していく心と実行するためのコミュニケーション能力。

○電気電子工学科

電気電子工学科は、電気電子情報社会を支える5分野(半導体デバイス、電気電子回路、計測制御、情報技術、電力)について基礎から学び、高度情報化社会を支える基盤技術である電気電子工学に含まれる多くの技術分野のうち、学生自身が適性ある分野を講義・実習を通して見極め、自らの目標を設定したうえで、多彩に配置された実験・演習を通して社会で活躍できる技術力を修得した人材を育成することを目的としています。そのため、本学の基本理念を理解し、次の能力を有すると認めた学生に学士(工学)の学位を授与します。

(1)専門知識・技能を修得し、実践する力

人と社会を理解し、自然に関する科学的知識と電気電子工学分野における基礎的な専門知識を有し、それらを適切に応用することができる。

(2)コミュニケーション力

知識と技術の伝達やグループ作業に必要な論理的な思考力、文章力とコミュニケーション力とを有し、他者と適切なコミュニケーションをとることができる。

(3)課題を発見し、問題を解決する力

科学的な思考力で判断と決断を行い、粘り強い意志力で行動し、問題解決に取り組むことができる。

(4)他者と協力して目的を達成する力

コミュニケーション力を活かし、他者と協調して自らの役割を果たせる。

(5)自らを律し、学び続ける力

獲得した知識や技術を正しく使用する倫理観と責任感を有し、最新科学技術の修得とその応用のための研鑽を続けることができる。

(6)総合力

新たな課題に対して、獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、解決できる。

○電子機械工学科

電子機械工学科は、ロボットやIoT、自動運転に代表される「メカトロニクス」の基礎である機械、電気・電子、計測・制御、情報の4分野の知識を教授すると共に、学生の適性に即した専門性の高い実験・実習による実践的な深化教育を通して、将来の超スマート社会の実現を担うメカトロニクスエンジニアを育成することを目的としています。そのため、本学の基本理念を理解し、

次の能力を有すると認めた学生に学士(工学)の学位を授与します。

(1)専門知識・技能を修得し、実践する力

・機械、電気・電子、計測・制御そして情報の分野における基礎的な専門知識や技能を修得し、それらを適切に実践し、応用することができる。

(2)コミュニケーション力

・技術の伝達やグループ作業に必要な文章力とコミュニケーション力とを有し活用できる。

(3)課題を発見し、問題を解決する力

・科学的な思考力で判断と決断を行い、粘り強い意志力で行動し、課題を発見して問題解決に取り組むことができる。

・知識や技術を用いて、社会の発展のために貢献できる。

(4)他者と協力して目的を達成する力

・グループの中で他者と協力し、自分一人の力だけでは達成できない目的まで達成できる能力を有している。

(5)自らを律し、学び続ける力

・獲得した技術を社会で正しく使用する倫理観と責任感を有している。

・最新科学技術の獲得とその応用のために研鑽を続けられる。

(6)総合力

・新たな課題に対して、獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、解決できる。

○機械工学科

機械工学科は、社会活動の基盤を支えるモノづくりに必要不可欠な機械工学の専門知識とそれを活かすための技術を総合的に教授することによって、国内外の産業界で広く活躍できる機械技術者を育成することを目的としています。そのため、本学の基本理念を理解し、次の能力を有すると認めた学生に学士(工学)の学位を授与します。

(1)専門知識・技能を修得し、実践する力

機械工学分野における基礎的な専門知識を有し、それらを適切に応用することができる。

(2)コミュニケーション力

知識や技術の伝達に必要な論理的思考力、記述力、プレゼンテーション力を有し、グループ作業においても他者と適切なコミュニケーションをとることができる。

(3)課題を発見し、問題を解決する力

科学的な思考力で判断と決断を行い、粘り強い意志力で行動し、問題解決に取り組むことができる。

(4)他者と協力して目的を達成する力

個性を発揮しながらも他者と協調して、自らの役割を、責任をもって果たすことができる。

(5)自らを律し、学び続ける力

獲得した知識や技術を正しく使用する倫理観と責任感を有し、最新科学技術の修得とその応用のための研鑽を続けることができる。

(6)総合力

モノづくりに関する諸問題を、獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用して、解決できる。

○基礎理工学科 数理科学専攻

基礎理工学科 数理科学専攻は、広範な科学知識、理数系的な思考力、高いコミュニケーション能力を兼ね備えた理数系ジェネラリストとして現代の社会に広く貢献する、技術者・研究者や教育者(数学・理科教員等)を育成することを目的としています。そのため、本学の基本理念を理解し、次の能力を有すると認めた学生に学士(工学)の学位を授与します。

(1)専門知識・技能を修得し、実践する力

基盤科学における基礎的な専門知識を有し、それらを適切に応用することができる。

(2)コミュニケーション力

知識や技術の伝達に必要な論理的な思考力、記述力、プレゼンテーション力を有し、他者と適切なコミュニケーションをとることができる。

(3)課題を発見し、問題を解決する力

科学的な思考力を有し、粘り強い意志力で行動し、問題解決に取り組むことができる。

(4)他者と協力して目的を達成する力

コミュニケーション力を活かし、他者と協調して自らの役割を果たせる。

(5)自らを律し、学び続ける力

獲得した知識や技術を正しく使用する倫理観と責任感を有し、最新科学の知識および技術の修得とその応用のために、自ら研鑽を続けることができる。

(6)総合力

新たな課題に対して、獲得した知識・技能・態度・志向等を総合的に活用して問題を解決できる。

○基礎理工学科 環境化学専攻

基礎理工学科 環境化学専攻は、人の健康維持に関与する食品に関する技術の基礎および応用力の包括的な教授による「食環境」を守る技術の獲得により、未来に貢献しうる専門的な人材を育成することを目的としています。そのため、本学の基本理念を理解し、次の能力を獲得したと認めた学生に学士(工学)の学位を授与します。

(1)専門知識・技能を修得し、実践する力

食環境を中心とする環境科学に関わる基礎から最先端の広い知識を有し、身の回りの生活や地球環境の改善に適切に応用することができる。

(2)コミュニケーション力

技術の伝達やグループ作業に必要な文章力とコミュニケーション力を有し、他者と適切なコミュニケーションをとることができる。

(3)課題を発見し、問題を解決する力

科学的な思考で判断決断し、粘り強い意志で行動し、問題解決に取り組むことができる。

(4)他者と協力して目的を達成する力

コミュニケーション力を活かし、他者と協調して自らの役割を果たせる。

(5)自らを律し、学び続ける力

倫理観と責任感を持って、最新科学技術の獲得とその応用のための研鑽を続けることができる。

(6)総合力

新たな課題に対して、獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、解決できる。

◎情報通信工学部

(情報通信工学部統一の学位授与方針)

情報通信工学部は、社会の基盤技術である情報通信工学にかかわる基礎知識および応用に関する実学教育を通じて、学生の学修成果の向上および学修目標の達成を支援し、情報通信技術をベースとして広く社会および産業界で活躍できる専門的な人材を育成することを目的としており、各学科における所定の単位を修得し、本学の基本理念に掲げる「手と頭と心」に対応する次の3つの能力を修得した者に「学士(情報工学・工学)」の学位を授与します。

(1)【手】多様化する社会からのニーズに対応できる自律的かつ意欲的なキャリア形成を目指す総合的能力。

(2)【頭】情報通信工学の基礎知識と高度情報化社会で活躍できる情報収集能力、問題分析能力。

(3)【心】実践を通じた問題解決能力、高度な情報通信技術者としての責任感やコミュニケーション能力。

○情報工学科

情報工学科は、人間の活動に不可欠な「情報」を扱うシステムを作り出すための基盤となるコンピュータハードウェア・ソフトウェア・ネットワークに関わる知識と技術を、数理的な知識体系に基づいて、基礎から応用に至るまで実学教育を通して教授することにより、広く社会及び産業界で活躍できる専門的な人材の育成を目的としています。そのため、本学の基本理念を理解し、次の能力を有すると認めた学生に学士(情報工学)の学位を授与します。

(1)専門知識・技能を修得し、実践する力

情報工学の専門的技術者として自他ともに認める存在となる技能を獲得できる。

(2)コミュニケーション力

技術者として必要な情報リテラシー能力を有し、他者と適切なコミュニケーションをとることができる。

(3)課題を発見し、問題を解決する力

科学的な思考力で判断と決断を行い、粘り強い意志の力で行動し、問題解決に取り組むことができる。

(4)他者と協力して目的を達成する力

他人と協調しつつ己の責任を全うし、社会に貢献することができる。

(5)自らを律し、学び続ける力

情報工学を必要とする多様な分野において、将来にわたり活躍できる力を獲得できる。また、大学院進学など、高度なキャリアを自ら進んで形成することができる。

(6)総合力

新たな課題に対して、獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、解決できる。

○通信工学科

通信工学科は、情報通信社会を支える 3 要素(ブロードバンド・マルチメディア・インターネット)の技術について基礎から教授することにより、情報化社会の発展に貢献する通信のスペシャリストの育成を目的としています。そのため、本学の基本理念を理解し、次の能力を有すると認めた学生に学士(工学)の学位を授与します。

(1)専門知識・技能を修得し、実践する力

通信工学分野における基礎的な専門知識を有し、それらを適切に応用することができる。

(2)コミュニケーション力

知識や技術の伝達に必要な論理的な思考力、記述力、プレゼンテーション力を有し、他者と適切なコミュニケーションをとることができる。

(3)課題を発見し、問題を解決する力

科学的な思考力で判断と決断を行い、粘り強い意志力で行動し、問題解決に取り組むことができる。

(4)他者と協力して目的を達成する力

コミュニケーション力を活かし、他者と協調して自らの役割を果たせる。

(5)自らを律し、学び続ける力

獲得した知識や技術を正しく使用する倫理観と責任感を有し、最新科学技術の修得とその応用のための研鑽を続けることができる。

(6)総合力

新たな課題に対して、獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、解決できる。

◎建築・デザイン学部

(建築・デザイン学部統一の学位授与方針)

建築・デザイン学部は、人間を取り巻くあらゆる空間の設計・造形と構築に関する知識と技術の実学教育を通じて、学生の学修成果の向上および学修目標の達成を支援し、広く社会および産業界で活躍できる専門的人材を育成することを目的としています。そのために、以下の内容をバランス良く学修して所定の単位を修め、本学の基本理念に掲げる「手と頭と心」に対応する次の3つの能力を修得した者に対して「学士(工学)」の学位を授与します。

(1)【手】豊かな人格形成および人々が安全で快適に生活できる社会を築くための基盤となる知識と教養を養い、自律的かつ意欲的なキャリア形成を目指した総合的能力。

(2)【頭】最先端の技術革新にも対応できる専門的知識と技能・技術とそれを用いた問題解決能力。

(3)【心】社会に対する責任と貢献を考え、他者と協働していく心と実行するためのコミュニケーション能力。

○建築・デザイン学科 建築専攻

建築・デザイン学科 建築専攻は、すべての人々が安全で快適に生活できる社会を支える都市と建築、インテリアにいたる幅広いスケールの実空間や、デジタル技術により構築された情報空間など、現実と仮想を問わない、人間を取り巻くありとあらゆる空間の設計・造形と構築に関する知識と技術を講義する実学教育を通じて、学生の人間的成長を支援し、広く社会および産業界で活躍でき、持続可能な社会の発展に貢献することができる専門的人材を育成することを目的としています。

そのため、本学の基本理念を理解し、次の能力を有すると認められた学生に学士(工学)の学位を授与します。

(1)専門知識・技能を修得し、実践する力

デジタル技術・造形物製作技術と人間の感性と伝統的な手わざによる設計技術・造形物製作技術を自在に組み合わせ、持続的社会的構築と発展のために貢献できる空間設計・造形を行い、空間を構築することができる。

(2)コミュニケーション力

情報技術も活用して最適な空間を構築するために、他者の意見を聞き、自分の意見を説明することができる。

(3)課題を発見し、問題を解決する力

社会的影響を理解した上で、専門知識・技能に加えてデジタル技術を活用して効率良く問題解決に取り組める。

(4)他者と協力して目的を達成する力

人々と積極的に交流できる力を磨き、個性を発揮しながらも他者と協調して自らの役割を責任を持って果たせる。

(5)自らを律し、学び続ける力

自らに誇りを持ち、心豊かな生活を営む価値観のもと、獲得した専門知識・技能を社会で正しく使用する倫理観と責任感を持って自ら進んで学び続けることができる。

(6)総合力

新たな課題に対して、獲得した専門知識・技能を活用し、誠意ある態度で、かつ個性を活かした総合的能力により社会の維持・発展に貢献できる。

○建築・デザイン学科 空間デザイン専攻

建築・デザイン学科 空間デザイン専攻は、すべての人々が安全で快適に生活できる社会を支える都市と建築、インテリアにいたる幅広いスケールの実空間や、デジタル技術により構築された情報空間など、現実と仮想を問わない、人間を取り巻くありとあらゆる空間の設計・造形と構築に関する知識と技術を講義する実学教育を通じて、学生の人間的成長を支援し、広く社会および産業界で活躍でき、持続可能な社会の発展に貢献することができる専門的人材を育成することを目的としています。

そのため、本学の基本理念を理解し、次の能力を有すると認められた学生に学士(工学)の学位を授与します。

(1)専門知識・技能を修得し、実践する力

デジタル技術・造形物製作技術と人間の感性と伝統的な手わざによる設計技術・造形物製作技術を自在に組み合わせ、持続的社会的構築と発展のために貢献できる空間設計・造形を行い、空間を構築することができる。

(2)コミュニケーション力

情報技術も活用して最適な空間を構築するために、他者の意見を聞き、自分の意見を説明することができる。

(3)課題を発見し、問題を解決する力

社会的影響を理解した上で、専門知識・技能に加えてデジタル技術を活用して効率良く問題解決に取り組める。

(4)他者と協力して目的を達成する力

人々と積極的に交流できる力を磨き、個性を発揮しながらも他者と協調して自らの役割を責任を持って果たせる。

(5)自らを律し、学び続ける力

自らに誇りを持ち、心豊かな生活を営む価値観のもと、獲得した専門知識・技能を社会で正しく使用する倫理観と責任感を持って自ら進んで学び続けることができる。

(6)総合力

新たな課題に対して、獲得した専門知識・技能を活用し、誠意ある態度で、かつ個性を活かした総合的能力により社会の維持・発展に貢献できる。

◎医療健康科学部

(医療健康科学部統一の学位授与方針)

医療健康科学部は、人々の生活の質の向上をめざし、医療、健康、福祉およびリハビリテーションに活用可能な技術の基礎知識および応用に関する実学教育を通じて、学生の学修成果の向上および学修目標の達成を支援し、広く社会で活躍できる専門的人材を育成することを目的としており、各学科における所定の単位を修得し、本学の基本理念に掲げる「手と頭と心」に対する次の3つの能力を修得した者に対し、各学科で定める分野の「学士」の学位を授与します。

(1)【手】医療科学、健康スポーツ科学の融合領域について自ら新しい医療健康技術の創造に組み実行していく力。

(2)【頭】医学、医療工学、工学・情報学、福祉工学、理学療法学、健康スポーツ科学等それぞれの分野における幅広い専門知識と実践的能力を有し、より良いものを追求するために必要な問題点を発見する力とそれを解決する力。

(3)【心】人間性、科学性、国際性、倫理観を有し、高齢社会や地球環境との関わりを考察し、協働して問題解決に取り組むことのできる力。

○医療科学科

医療科学科は、安心・安全な医療・健康を実現するために、医学及び工学を基盤とした医療健康科学について教授研究し、生体計測とデータ処理技術に精通した情報エンジニア、医療健康機器の開発や医療安全管理技術に深い理解を有する医療機器のスペシャリスト、臨床現場に貢献できる人間力・応用力を有した臨床工学技士を育成することを目的としています。そのため、本学の基本理念を理解し、次の能力を有すると認めた学生に学士(工学)の学位を授与します。

(1)専門知識・技能を修得し、実践する力

医療業務に従事できる基礎的な知識と医学に精通した技術者の専門的な知識を有し、それらを適切に応用することができる。

(2)コミュニケーション力

知識や技術の伝達に必要な論理的な思考力、記述力、プレゼンテーション力を有し、チーム医療のスタッフとして、他者と適切なコミュニケーションをとることができる。

(3)課題を発見し、問題を解決する力

医学と工学の知識に基づいた科学的な思考力で判断と決断を行い、問題解決に取り組むことができる。

(4)他者と協力して目的を達成する力

コミュニケーション力を活かし、多職種連携して、医療技術の発展のために貢献できる。

(5)自らを律し、学び続ける力

社会的な公正性と倫理観を有し、高度医療技術の獲得とその応用のための研鑽を続けることができる。

(6)総合力

獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、新たな課題に対して、解決できる。

○理学療法学科

理学療法学科は、責任感と豊かな人間性、論理的思考の基礎となる科学的素養とともに、最新の医療知識と技術を備えた人材を育成することを目的としています。そのため、本学の基本理念を理解し、次の能力を有すると認めた学生に、学士(理学療法学)の学位を授与します。

(1)専門知識・技能を修得し、実践する力

理学療法士国家試験に合格できるレベルの総合的知識と、保健・医療・福祉の各領域の業務に従事できる専門知識、技能を修得し実践できる。

(2)コミュニケーション力

リハビリテーション医療のスタッフとして、協調的に業務に参加するためのコミュニケーションをとることができる。

(3)課題を発見し、問題を解決する力

粘り強い意志をもって行動し、課題発見と問題解決に取り組むことができる。

(4)他者と協力して目的を達成する力

対人援助職、社会人として、良好な人間関係を構築できる基本的な態度をとることができる。

(5)自らを律し、学び続ける力

知識・技術を常に向上させることに、常に積極的に取り組むことができる。

(6)総合力

多様な課題に対して、修得した知識、技術、態度など総合的に活用し、自ら問題を抽出し、解決できる。

○健康スポーツ科学科

健康スポーツ科学科は、科学的な視点を持ち、基礎医学やスポーツ科学・健康科学および情報処理技術の知識や技術を修得する。これにより、健康のためのライフスタイルの提言と実践的な指導ができる健康づくり運動や生涯スポーツの指導者の育成、および保健体育科教員や競技スポーツ指導者の育成を目的としています。このため、本学の基礎理念を理解し、次の能力を有すると認めた学生に学士(健康科学)の学位を授与します。

(1)専門知識・技能を修得し、実践する力

健康科学、スポーツ科学分野における基本的な専門知識・技能を有し、それらを適切に実践することができる。

(2)コミュニケーション力

知識や技術の伝達およびグループ作業・教育指導に必要な論理的思考力、記述力、プレゼンテーション力を有し、他者と適切なコミュニケーションをとることができる。

(3)課題を発見し、問題を解決する力

課題を発見し、科学的な思考力で判断と決断を行い、粘り強い意志力で行動し、問題解決に取り組むことができる。

(4)他者と協力して目的を達成する力

コミュニケーション力を活かし、他者と協調して自らの役割を果たし、人々の健康維持・増進のために貢献できる。

(5)自らを律し、学び続ける力

修得した知識や技術を社会で正しく使用する倫理観と責任感を有し、最新科学技術の獲得とその応用のための研鑽を続けることができる。

(6)総合力

新たな課題に対して、獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、解決できる。

◎総合情報学部

(総合情報学部統一の学位授与方針)

総合情報学部は、多様な生活文化の創造を支えるために、情報技術の基礎知識および応用に関する実学教育ならびにコンテンツ制作活動を通じて、学生の学修成果の向上および学修目標の達成ならびに技能向上を支援し、広く社会および産業界で活躍できる専門的人材を育成することを目的としており、各学科における所定の単位を修得し、本学の基本理念に掲げる「手と頭と心」に対応する次の3つの能力を獲得した者に「学士(情報学)」の学位を授与します。

(1)【手】豊かな人格形成および社会に貢献する人材の基盤となる知識と教養を養い、

自律的かつ意欲的なキャリア形成を目指した総合的能力。

(2)【頭】国際社会で通用する専門的知識と技能・技術とそれらを用いた問題解決能力。

(3)【心】高度な専門的実践力に裏付けられた、情報技術と生活文化の発展に貢献するためのコミュニケーション能力。

○デジタルゲーム学科

デジタルゲーム学科は、デジタルゲームを軸とする主に対話的なエンタテインメントコンテンツ分野の学際的研究や制作を通して、幅広い意味でのエンタテインメントに関する高度な知識と技術の修得を支援し、協調性とコミュニケーション能力を持って、広く社会及び産業界で継続的に貢献できる人材を育成することを目的としています。そのため、本学の基本理念を理解し、次の能力を有すると認めた学生に学士(情報学)の学位を授与します。

(1)専門知識・技能を修得し、実践する力

デジタルゲームを主軸としたエンタテインメントコンテンツ分野の基礎的な専門知識を有し、それらを適切に応用することができる。

(2)コミュニケーション力

知識や技術の伝達に必要な論理的な思考力、記述力、プレゼンテーション力を有し、他者と適切なコミュニケーションをとることができる。

(3)課題を発見し、問題を解決する力

科学的な思考力や芸術的な創造力で判断と決断を行い、粘り強い意志力で行動し、問題解決に取り組むことができる。

(4)他者と協力して目的を達成する力

コミュニケーション力を活かし、他者と協調して自らの役割を果たせる。

(5)自らを律し、学び続ける力

獲得した知識や技術を正しく使用する倫理観と責任感を有し、最新科学技術の修得とその応用のための研鑽を続けることができる。

(6)総合力

新たな課題に対して、獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、解決できる。

○ゲーム&メディア学科

ゲーム&メディア学科は、エンタテインメントコンテンツの企画・制作・教育を軸とするデジタル分野の学際的研究や制作を行い、関連するメディアの幅広い知識と高度な制作技術を修得し、それらのコンテンツの意義や魅力を広く社会に発信することでビジネスにつなげ、社会で継続的に貢献できる人材を育成することを目的としています。そのため、本学の基本理念を理解し、次の能力を有すると認めた学生に学士(情報学)の学位を授与します。

(1)専門知識・技能を修得し、実践する力

デジタルゲームとエンタテインメントコンテンツ分野における基礎的な専門知識を包括的に有し、それらを適切に応用することができる。

(2)コミュニケーション力

知識や技術の伝達に必要な論理的な思考力、記述力、プレゼンテーション力を有し、他者と適切なコミュニケーションをとることができる。

(3)課題を発見し、問題を解決する力

科学的な思考力や芸術的な創造力で判断と決断を行い、粘り強い意志力で行動し、問題解決に取り組むことができる。

(4)他者と協力して目的を達成する力

立場や意見が異なる他者との中で自らの役割を担い、主体的に行動し、他者と協調して物事を成し遂げることができる。

(5)自らを律し、学び続ける力

学修した知識や技術を正しく使用する倫理観と責任感を有し、最新科学技術の修得とその応用のための研鑽を続けることができる。

(6)総合力

新たな課題に対し、獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、解決できる。

○情報学科

情報学科は、進化し続ける ICT や IoT 技術の基盤となる知識の修得、即戦力となり得る実践力の獲得、コミュニケーション能力等を中心とした社会性の向上の 3 項目を教育目標とし、情報のスペシャリストとして社会で活躍できる人材の育成を目的としています。そのため、本学の基本理念を理解し、次の能力を有すると認めた学生に学士(情報学)の学位を授与します。

(1)専門知識・技能を修得し、実践する力

情報処理技術者に必要な数学や情報学の知識を有し、それらを適切に応用できる。

(2)コミュニケーション力

技術者として必要な情報リテラシー能力を有し、他者と適切なコミュニケーションをとることができる。

(3)課題を発見し、問題を解決する力

科学的な思考力で判断と決断を行い問題解決に取り組める。

(4)他者と協力して目的を達成する力

コミュニケーション力を活かし、他者と協調して自らの役割を果たし、責任感を持って社会の発展のために貢献できる。

(5)自らを律し、学び続ける力

獲得した知識や技術を正しく使用する倫理と心構えを身に付け、最新科学技術の修得とその応用のための研鑽を続けることができる。

(6)総合力

種々の問題に対して、獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用して解決できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：HP に掲載。<https://www.osakac.ac.jp/about/policy/faculty/>)

(概要)

(全学統一の教育課程編成方針)

大阪電気通信大学は、ディプロマ・ポリシーに掲げる要件を修得させるために、各学部・学科でカリキュラム体系を構築し、個々の学生が主体的にかつ計画的に学び、実際に社会で活用できる能力を身に付けさせていくことを教育方針の基本としています。

その学修効果を高めて、学修した知識や技能を実質化していくために、実学の学びの課程を次の 4 つの OECU* ステップ：

ときめき(Opportunity) → 実践(Experience) → 感動(Capability) → 発展(Utility)に分類しています。それをガイドラインとして、主体的にかつ計画的に学修を進めていけるよう、各学科の教育課程の流れを図式化したカリキュラム・ツリーで表現しています。

まず、入学の機会(Opportunity)を得た段階で、各学科の導入教育や入門講座などによって、将来こんなことや、あんなこともできるという「ときめき」を覚えてもらいます。

次に、基礎専門科目と演習、実験・実習などによって、各学科で学んでいく専門の基礎の部分を「実践」(Experience)しながら学修します。

2 年次から 3 年次へと、専門科目の学修を深めていく段階では、ますます実学の可能性(Capability)を感じ取って、より大きな「感動」を覚えるようになります。

最終学年では、修得した知識や技能を活用しながら、主に卒業研究やゼミナールを通して学びを「発展」させ、その有用性(Utility)を体験していきます。

このような専門教育の流れに、人文社会系の共通科目や語学、キャリア科目を体系的に組み合わせて学修していくことにより、人間力やコミュニケーション能力を総合的に培っていくと同時に、社会で活躍していく自分の将来像を思い描くことができるキャリアデザインの能力も培っていきます。

* OECU は本学の英文名(Osaka Electro-Communication University)の頭字語です。

◎工学部

(工学部統一の教育課程編成方針)

工学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる要件を修得するために、工学の幅広い専門知識と基礎力を育成します。そのために、各学科において以下の教育方針の下でカリキュラムを編成します。

また、各学科で部分的にクォーター制を導入して、集中学習による学修効果の向上を図ります。学修成果の評価については、各学科のカリキュラム・ポリシーに示します。

(1)共通科目において、社会で活躍するために必要な教養と柔軟な思考を養うことのできる課程を編成します。

(2)キャリア形成科目を設置し、低年次から上位年次まで常に主体性・実行力を修得できる課程を編成します。

(3)専門科目において、講義、演習等を体系的に組合せ、専門的知識・技能を効果的に修得できる課程を編成します。

(4)実験・演習、実習等を体系的に組合せ、実践的な問題発見力および解決力を育成するよう編成します。

(5)プレゼミナール、卒業研究等を通じ、修得した知識や技能を活用しながら、合わせて責任感、倫理観、コミュニケーション能力等を育成するよう編成します。

○電気電子工学科

電気電子工学科は、ディプロマ・ポリシーの各項目を達成するために以下の方針に基づいた教育課程を定め、必要な授業科目の流れと、各項目と授業との整合性を体系的に理解できるようにカリキュラム・マップを用意しています。

(1)学修課程

①専門知識・技能を修得し、実践する力

基礎専門科目と専門科目に座学と実験・実習、演習科目を配置し、専門に関係する基礎から応用までの知識・技術を修得できる課程を編成します。

②コミュニケーション力

共通科目に外国語群やプロジェクトスキル形成群を配置し、コミュニケーション力を修得する課程を編成します。またスポーツ実習や実験・実習科目を通じ、同様の力を培う機会を提供します。

③課題を発見し、問題を解決する力

異分野協働エンジニアリング・デザイン演習並びに、プロジェクトスキル形成群と基礎専門科目(数学・物理)の知識、共通重点科目(情報)を活用して、課題発見力・問題解決力の修得を目指します。

④他者と協力して目的を達成する力

共通科目の人文・社会・自然群において幅広い教養を身に付けるとともに、プロジェクトスキル形成群やスポーツ実習、実験・実習科目を通じ、他者との協働力を修得できる機会を提供します。

⑤自らを律し、学び続ける力

プレゼミナール、卒業研究を通して、倫理観と共に主体的に新しい知識・技能を修得する機会を提供します。

⑥総合力

各科目で修得した内容を組み合わせること、また卒業研究を必修として学修することで、総合力を修得する機会を提供します。

(2)学修方法

・自ら長期的に学修状況を振り返り主体的に学修する支援ツールに目標や大学での活動内容を記載していくことで、自分自身の達成度を確認します。また、記載内容に対して、グループ担任からコメントを受け取ります。

・主要な科目において、四半期に同じ科目を週2回集中して受講すること(クォーター制)で、効率的に学修します。

・オフィスアワーなどの講義外個別学修支援を利用することで、基礎を確実に身に付けることができます。

・多くの科目で演習を受講し、より具体的な事例を学ぶことで、理解を深めます。特に、本学科の基幹科目である電気電子回路においては、徹底して演習することにより実践的な能力を身に付けます。

・実験科目を通して、電気電子工学分野のモノづくりを理解すると共に、主体的行動とグループ作業における協調性・責任感を身に付けます。

(3)学修成果の評価

・試験やレポート、課題提出等に基づき、科目ごとに設定された到達目標に対する到達度を用いて評価します。

・学部規則に定める GPA を用いて、修学指導を行います。また、GPA は、学業優秀賞、各種奨学金および大学院内部進学の対象者選抜等に用います。

・各学期末に、各科目の成績を評価観点の割合で積算し、他の履修学生と比較した学修効果測定グラフを学修支援ツール上で提示します。また、学科が定めるスキル分野の単位修得状況も学修支援ツール上で提示します。

・学修の過程を具体的に把握するためアンケート調査による点検を学期毎に実施し、教員との面談を通じて以降の学修計画を的確に立案します。

・専門科目別に成績優秀者を表彰し、幅広い電気電子工学分野の中でも、得意な分野の重点的な学修を奨励します。

・卒業研究発表会を学科全体で実施し、研究内容だけでなく、文章力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力を評価します。

○電子機械工学科

電子機械工学科は、ディプロマ・ポリシーの各項目を達成するために以下の方針に基づいた教育課程を定め、必要な授業科目の流れや、各項目と授業の整合性を体系的に理解できるようにカリキュラム・マップを用意しています。

(1)学修課程

①専門知識・技能を修得し、実践する力

コース基礎専門科目とコース専門科目、メカトロニクス共通科目に分類し、「メカトロニクス」を理解するために必要な機械、電気・電子、計測・制御、情報の専門知識を修得できる課程を編成します。

②コミュニケーション力

共通科目に外国語群やプロジェクトスキル形成群を配置し、コミュニケーション力を修得する課程を編成します。また、社会人になるための基礎知識、マナーを修得できる機会を提供します。

③課題を発見し、問題を解決する力

機械、電気・電子、計測・制御、情報の専門知識を適切に融合し応用できる、実践的な能力を身に付ける課程を編成します。また、実習・実践科目では、自ら課題を発見し、獲得した知識や技能を総合的に活用することで、課題解決のための創造的思考力の修得を目指します。

④他者と協力して目的を達成する力

実習・実践科目では、多くのグループ活動を通して、他者と協調して問題を解決して目的を達成する力を修得できる機会を提供します。

⑤自らを律し、学び続ける力

プレゼминаール、卒業研究を通して、倫理観と共に主体的に新しい知識・技能を修得する機会を提供します。

⑥総合力

機械、電気・電子、計測・制御、情報等の科目で修得した内容を組み合わせることと、卒業研究で、獲得した知識や技能を総合的に活用することで、課題解決のための創造的思考力を身につけるとともにその成果を発信する表現力を修得する機会を提供します。

(2)学修方法

・自ら長期的に学修状況を振り返り主体的に学修する支援ツールに目標や大学での活動内容を記載していくことで、自分自身の達成度を確認します。また、記載内容に対して、グループ担任からコメントを受けます。

・オフィスアワーなどの講義外個別学修支援を利用することで、基礎を確実に身に付けることが

できます。

- ・修得した成績についての論評を受け、学修方法などの助言を得ると同時に半期ごとの目標設定の助言を受け、学修成果の向上を目指します。

(3)学修成果の評価

- ・試験やレポート、課題提出等に基づき、科目ごとに設定された到達目標に対する到達度を用いて評価します。

- ・学部規則に定める GPA を用いて、修学指導を行います。また、GPA は、学業優秀賞、各種奨学金および大学院内部進学の対象者選抜等に用います。

- ・各学期末に、各科目の成績を評価観点の割合で積算し、他の履修学生と比較した学修効果測定グラフを学修支援ツール上で提示します。また、学科が定めるスキル分野の単位修得状況も学修支援ツール上で提示します。

- ・学修効果を具体的に把握するために、GPA 評点に基づく順位付けを実施します。

○機械工学科

機械工学科は、ディプロマ・ポリシーの各項目を達成するために以下の方針に基づいた教育課程を定め、必要な授業科目の流れや、各項目と授業の整合性を体系的に理解できるようにカリキュラム・マップを用意しています。

(1)学修課程

①専門知識・技能を修得し、実践する力

基礎専門科目、専門科目に座学と実験・実習、演習科目を配置し、専門に関する基礎から応用までの知識・技能を修得できる課程を編成します。四力学などの主要科目については、確実な基礎力が身につけられるよう、講義と演習科目を併設して開講します。

②コミュニケーション力

共通科目に外国語群やプロジェクトスキル形成群を配し、コミュニケーション力を修得する課程を編成します。また実験・実習科目におけるグループワークを通じ、理解や考えを伝える力および相手の意見を聞く力を培う機会を提供します。

③課題を発見し、問題を解決する力

プロジェクトスキル形成群や実験・実習科目を通じ、アクティブラーニングなども導入し、課題発見力・問題解決力の修得を目指します。卒業研究では、学修した知識や技術を活用した問題解決の手法を実践的に修得できる機会を提供します。

④他者と協力して目的を達成する力

共通科目の人文・社会・自然群において幅広い教養を身に付けるとともに、プロジェクトスキル形成群や実験・実習科目を通じ、他者と協働で作業を進める力を修得できる機会を提供します。

⑤自らを律し、学び続ける力

各科目の事前学修・事後学修やプレゼミナール、卒業研究を通して、自ら計画的に課題に取り組み、倫理観と共に主体的に新しい知識・技能を修得する機会を提供します。

⑥総合力

卒業研究を必修として学修することで、各科目で修得した知識や技術を活用して実践する、創造力や総合力を修得する機会を提供します。

(2)学修方法

- ・学修支援ツールに自らの目標や大学での活動内容を記載していくことで、主体的かつ長期的に学修を振り返ります。また、記載内容に対するグループ担任からのコメントを受け取ります。

- ・オフィスアワーなどの講義外個別学修支援を受講することで、基礎を確実に身に付けることができます。

- ・学業成績についてグループ担任と面談し、学修方法などの助言を得ると同時に半期ごとの目標設定の助言を受け、効果的な学修を目指します。

(3)学修成果の評価

- ・試験やレポート、課題提出等に基づき、科目ごとに設定された到達目標に対する到達度を用いて評価します。

- ・各学期末に、学修課程の評価観点ごとに各科目の成績を積算した学修効果測定グラフ、および機械工学科が定めるスキル分野別の単位修得状況グラフを学修支援ツール上で提示します。

・学部規則に定める GPA を用いて、修学指導を行います。また、GPA は、学業優秀賞、各種奨学金及び大学院内部進学の対象者選抜等に用います。

・学修成果を具体的に把握するため、GPA 評点および修得単位数などに基づく順位付けを実施します。

○基礎理工学科 数理科学専攻

基礎理工学科 数理科学専攻は、ディプロマ・ポリシーの各項目を達成するために以下の方針に基づいた教育課程を定め、必要な授業科目の流れや、各項目と授業の整合性を体系的に理解できるようにカリキュラム・マップを用意しています。

(1)学修課程

①専門知識・技能を修得し、実践する力

基礎専門科目、専門科目に座学と実験・実習、演習科目を配置し、専門に関する基礎から応用までの知識・技能を修得できる課程を編成します。基礎理工学を学ぶ意義や社会との関わりを理解するための導入科目を配置し、基盤科学の知識・技能を修得する動機付けを行います。

②コミュニケーション力

共通科目に外国語群やプロジェクトスキル形成群を配置し、コミュニケーション力を修得する課程を編成します。また、スポーツ実習や実験・実習科目、実践型プロジェクト学習を通じ、同様の力を培う機会を提供します。

③課題を発見し、問題を解決する力

プロジェクトスキル形成群並びに、基礎専門科目(数学・物理・化学)の知識や共通重点科目を活用して、課題発見力・問題解決力の修得を目指します。さらに、実践型プロジェクト学習を通じてより高度な課題発見・解決力を培う機会を提供します。

④他者と協力して目的を達成する力

共通科目の人文・社会・自然群において幅広い教養を身につけるとともに、プロジェクトスキル形成群やスポーツ実習、実験・実習科目、実践型プロジェクト学習を通じ、他者との協働力を修得できる機会を提供します。

⑤自らを律し、学び続ける力

プレゼминаール、卒業研究を通じて、倫理観と共に主体的に新しい知識・技能を修得する機会を提供します。

⑥総合力

一つの課題を様々な分野から俯瞰する融合科学科目を配置し、各科目で修得した内容を組み合わせる意義を教授します。また卒業研究を必修として学修することで、総合力を修得する機会を提供します。

(2)学修方法

・学修支援ツールに自らの目標や大学での活動内容を記載していくことで、学生が自ら主体的かつ長期的に学修状況を振り返り学修します。また、記載内容に対して、グループ担任からコメントを受けます。

・個々の学修状況に応じて、学生が自ら学ぶ姿勢や学修方法などについて助言を受け、学修成果の向上を目指します。

・オフィスアワーなどの講義外個別学修支援を利用することで、基礎を確実に身に付けることができます。

(3)学修成果の評価

・試験やレポート、課題提出等に基づき、科目ごとに設定された到達目標に対する到達度を用いて評価します。

・学部規則に定める GPA を用いて、修学指導を行います。また、GPA は、学業優秀賞、各種奨学金および大学院内部進学の対象者選抜等に用います。

・各学期末に、各科目の成績を評価観点の割合で積算し、他の履修学生と比較した学修効果測定グラフを学修支援ツール上で提示します。また、学科が定めるスキル分野の単位修得状況も学修支援ツール上で提示します。

・学修成果を客観的に把握するため、GPA 評点に基づく順位付けを実施します。

○基礎理工学科 環境化学専攻

基礎理工学科 環境化学専攻は、ディプロマ・ポリシーの各項目を達成するために以下の方針に基づいた教育課程を定め、必要な授業科目の流れや、各項目との授業の整合性を体系的に理解できるようにカリキュラム・マップを用意しています。

(1)学修課程

①専門知識・技能を修得し、実践する力

基礎専門科目、専門科目、共通重点科目(情報)に講義と実験・演習科目を配置し、専門に関する基礎から応用までの知識・技能を修得できる課程を編成します。

②コミュニケーション力

共通科目に外国語群やプロジェクトスキル形成群を配置し、コミュニケーション力を修得する課程を編成します。またスポーツ実習や実験科目を通じて同様の力を培う機会を提供します。

③課題を発見し、問題を解決する力

プロジェクトスキル形成群並びに、基礎専門科目、専門科目における実験科目、さらには卒業研究を通じ、課題を発見し、問題を解決する力の修得を目指します。

④他者と協力して目的を達成する力

プロジェクトスキル形成群やスポーツ実習、実験科目を通じ、他者との協働力を修得できる機会を提供します。

⑤自らを律し、学び続ける力

プレゼминаール、卒業研究を通して、倫理観と共に主体的に新しい知識・技能を修得できる機会を提供します。

⑥総合力

共通科目の人文・社会・自然群において幅広い教養を身に付けるとともに、専門科目の知識の位置づけができ、卒業研究を必修として学修することで、総合力を修得する機会を提供します。

(2)学修方法

・学生が自ら長期的に学修状況を振り返り主体的に学修する支援ツールに目標や大学での活動内容を記載していくことで、自分自身の達成度を確認します。また、記載内容に対して、グループ担任からコメントを受けます。

・オフィスアワーなどの講義外個別学修支援を利用することで、基礎を確実に身に付けることができます。

・修得した成績の状況に基づき、学修方法や目標設定などの助言を得て、学修成果の向上を目指します。

(3)学修成果の評価

・試験やレポート、課題提出等に基づき、科目ごとに設定された到達目標に対する到達度を用いて評価します。

・学部規則に定める GPA を用いて、学修指導を行います。また、GPA は、学業優秀賞、各種奨学金および大学院内部進学の対象者選抜等に用います。

・各学期末に、各科目の成績を評価観点の割合で積算し、他の履修学生と比較した学修効果測定グラフを支援ツール上で提示します。また、学科が定めるスキル分野の単位修得状況も支援ツール上で提示します。

・学修成果を具体的に把握するため、GPA 評点に基づく順位付けを実施します。

◎情報通信工学部

(情報通信工学部統一の教育課程編成方針)

情報通信工学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる要件を修得させるために、各学科において以下の教育方針の下で、ソフトウェア、ハードウェア、ブロードバンド、マルチメディア、インターネットに関する基盤科目、実験科目がバランスよく含まれたカリキュラム(教育課程)を編成し実学教育を実行します。また、各学科で部分的にクォーター制を導入して、集中学習による学修効果の向上を図ります。

学修成果の評価については、各学科のカリキュラム・ポリシーに示します。

(1)将来の進路選択をサポートし、幅広い情報通信関連の職業に就けるように、充実したキャリ

ア支援科目を編成します。

(2)ハードウェアとソフトウェアの両面から情報通信工学を体系的に学び、情報通信技術について基礎から応用まで深く理解することで、近未来における急激な技術の進歩にも柔軟に対応でき、将来の情報通信システムの発展に寄与できる、真の情報通信技術者を育成します。

(3)情報通信をより高品質で快適に行える新世代ネットワークシステムや、携帯電話などをはじめとした通信の性能を飛躍的に向上させる通信方式など、コンピュータネットワークに関する教育・研究を通じて情報通信の未来を担う人材を育成します。

(4)実験・演習、プレゼミナール、卒業研究等を通じ、実践的な問題解決力及びコミュニケーション能力を育成します。

○情報工学科

情報工学科は、ディプロマ・ポリシーの各項目を達成するために以下の方針に基づいた教育課程を定め、必要な授業科目の流れと、各項目と授業との整合性を体系的に理解できるようにカリキュラム・マップを用意しています。

(1) 学修課程

①専門知識・技能を修得し、実践する力

情報工学の幅広い応用分野に対応するため、基礎専門科目、専門科目に座学、演習、実験科目を配置し、知能情報科学、データサイエンス、情報システム、メディア情報処理の4分野に関する基礎から応用までの幅広い専門知識・技術を段階的に修得できる課程を編成します。これらの分野においては、数理的な知識を基礎に、ハードウェアからソフトウェアに至る基盤的専門知識を体系的に身に付けます。また、演習科目を通じ、コンピュータの本質的な計算能力や工学的応用の仕組みを実践的に学びます。

②コミュニケーション力

実験・演習活動に取り組むことにより、技術者としてのコミュニケーション能力を修得します。共通科目に外国語群やプロジェクトスキル形成群を配置し、コミュニケーション力を修得する課程を編成します。またスポーツ実習や実験・実習科目を通じ、同様の力を培う機会を提供します。

③課題を発見し、問題を解決する力

プロジェクトスキル形成群並びに、基礎専門科目(数学・物理)、情報工学の基礎専門科目・専門科目で学ぶ知識・技術を活用して、課題発見力・問題解決力の修得を目指します。

④他者と協力して目的を達成する力

共通科目の人文・社会・自然群において幅広い教養を身につけるとともに、プロジェクトスキル形成群やスポーツ実習、実験・実習科目を通じ、他者との協働力を修得できる機会を提供します。

⑤自らを律し、学び続ける力

プレゼミナール、および、本格的な研究開発プロジェクトである卒業研究を通して、倫理観と共に自律的学修を継続できるような応用力、情報収集能力、問題分析能力、口頭発表・文章構成の能力を身につける機会を提供します。

⑥総合力

各科目で修得した内容を組み合わせること、また卒業研究を必修として学修することで、総合力を修得する機会を提供します。

(2) 学修方法

・座学と連携した実験・演習科目により、知識を確実に身につけ、課題発見力・問題解決力のさらなる向上を目指します。

・自ら長期的に学修状況を振り返り主体的に学修する支援ツールに目標や大学での活動内容を記載していくことで、自分自身の達成度を確認します。また、記載内容に対して、グループ担任からコメントを受け取ります。

・オフィスアワーなどの講義外個別学修支援を利用することで、基礎を確実に身につけることができます。

(3) 学修成果の評価

・試験やレポート、課題提出等に基づき、科目ごとに設定された到達目標に対する到達度を用いて評価します。

- ・学部規則に定める GPA を用いて、修学指導を行います。また、GPA は、学業優秀賞及び大学院内部進学の対象者選抜等に用います。
- ・各学期末に、各科目の成績を評価観点の割合で積算し、他の履修学生と比較した学修効果測定グラフを学修支援ツール上で提示します。
- ・学修課程を具体的に把握するためアンケート調査による点検を学期毎に実施し、教員との面談を通じて以降の学修計画を的確に立案します。
- ・卒業研究発表会を学科全体で実施し、研究内容だけでなく、文章力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力を評価します。

○通信工学科

通信工学科は、ディプロマ・ポリシーの各項目を達成するために以下の方針に基づいた教育課程を定め、必要な授業科目の流れや、各項目と授業の整合性を体系的に理解できるようにカリキュラム・マップを用意しています。

(1)学修課程

①専門知識・技能を修得し、実践する力

基礎専門科目、専門科目に座学と実験・実習、演習科目を配置し、専門に関する基礎から応用までの知識・技能を修得できる課程を編成します。

②コミュニケーション力

共通科目に外国語群やプロジェクトスキル形成群を配置し、コミュニケーション力を修得する課程を編成します。またスポーツ実習や実験・実習科目を通じ、同様の力を培う機会を提供します。

③課題を発見し、問題を解決する力

プロジェクトスキル形成群並びに、基礎専門科目(数学・物理)の知識や共通重点科目(情報)を活用して、課題発見力・問題解決力の修得を目指します。

④他者と協力して目的を達成する力

共通科目の人文・社会・自然群において幅広い教養を身に付けるとともに、プロジェクトスキル形成群やスポーツ実習、実験・実習科目を通じ、他者との協働力を修得できる機会を提供します。

⑤自らを律し、学び続ける力

プレゼミナール、卒業研究を通して、倫理観と共に主体的に新しい知識・技能を修得する機会を提供します。

⑥総合力

各科目で修得した内容を組み合わせること、また卒業研究を必修として学修することで、総合力を修得する機会を提供します。

(2)学修方法

・学修支援ツールに自らの目標や大学での活動内容を記載していくことで、学生が自ら主体的かつ長期的に学修状況を振り返り学修します。また、記載内容に対して、グループ担任からコメントを受けます。

・オフィスアワーなどの講義外個別学修支援を利用することで、基礎を確実に身に付けることができます。

・修得した成績についての論評を受け、学修方法などの助言を得ると同時に半期ごとの目標設定の手助けを受け、学修成果の向上を目指します。

(3)学修成果の評価

・試験やレポート、課題提出などに基づき、科目ごとに設定された到達目標に対する到達度を用いて評価します。

・学部規則に定める GPA を用いて、修学指導を行います。また、GPA は、学業優秀賞、各種奨学金および大学院内部進学の対象者選抜等に用います。

・各学期末に、各科目の成績を評価観点の割合で積算し、他の履修学生と比較した学修効果測定グラフを学修支援ツール上で提示します。また学科が定めるスキル分野の単位修得状況も学修支援ツール上で提示します。

・学修成果を具体的に把握するため、GPA 評点に基づく順位付けを実施します。

◎建築・デザイン学部

(建築・デザイン学部統一の教育課程編成方針)

建築・デザイン学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる要件を修得するために、工学・建築学・デザイン学の幅広い専門知識と基礎力を育成します。そのために、学科および各専攻において以下の教育方針の下でカリキュラムを編成し、主体的に活動できる専門性を持った多様な人材を育成します。

学修成果の評価については、学科および各専攻のカリキュラム・ポリシーに示します。

(1)共通科目において、社会で活躍するために必要な教養と柔軟な思考を養うことのできる課程を編成します。

(2)キャリア形成科目を設置し、低年次から上位年次まで常に主体性・実行力を修得できる課程を編成します。

(3)専門科目において、講義、演習等を体系的に組合せ、専門的知識・技能を効果的に修得できる課程を編成します。

(4)実験・演習、実習等を体系的に組合せ、実践的な問題発見力および解決力を育成するよう編成します。

(5)プレゼミナール、卒業研究または卒業設計等を通じ、修得した知識や技能を活用しながら、合わせて責任感、倫理観、コミュニケーション能力等を育成するよう編成します。

○建築・デザイン学科 建築専攻

建築・デザイン学科 建築専攻では、ディプロマ・ポリシーに掲げる要件を修得するために、工学・建築学・デザイン学の幅広い専門知識と基礎力を育成します。そのために以下の教育方針の下でカリキュラムを編成します。また、必要な授業科目の流れや、各項目と授業の整合性を体系的に理解できるようにカリキュラム・マップを用意しています。

(1)学修課程

①専門知識・技能を修得し、実践する力

基礎専門科目、専門科目に座学と実験・実習、演習科目を配置し、安全で快適な生活のために発展してきた建築技術に関する基礎から応用までの知識・技能を修得できる課程を編成します。建築学の導入教育としては「建築学入門」に重点をおいた教育を行います。さらには、一級・二級建築士受験資格に必要な建築設計、建築計画、建築環境工学・建築設備、構造力学・建築構造・建築材料、建築生産・法規についての授業科目を提供します。

②コミュニケーション力

共通科目に外国語群やプロジェクトスキル形成群を配置し、低年次から上位年次まで常に主体性・実行力・コミュニケーション力を修得する課程を編成します。またスポーツ実習や実験・実習科目を通じ、同様の力を培う機会を提供します。

③課題を発見し、問題を解決する力

プロジェクトスキル形成群および基礎専門科目(数学・物理)の知識や共通重点科目(情報)を活用して、課題発見力・問題解決力の修得を目指します。また、建築各分野全体をテーマに ICT を駆使して、CAD により図面を描き、デジタルデザイン技術により図面を実際の建物のようにリアルに描画し、3 次元で BIM によりデザインした建物に様々な建物情報を与えることで、設計、施工、維持管理を最適化する技術演習を実施します。これらの授業科目を通じて、課題発見力・問題解決力のさらなる修得を目指します。

④他者と協力して目的を達成する力

プロジェクトスキル形成群やスポーツ実習、実験・実習科目を通じ、他者との協働力を修得できる機会を提供します。

⑤自らを律し、学び続ける力

プレゼミナール、卒業研究を通して、倫理観と共に主体的に新しい知識・技能を修得する機会を提供します。

卒業研究には卒業論文による成果に加えて建築設計による成果を評価対象として認めます。

⑥総合力

共通科目の人文・社会・自然群において幅広い教養を身につけるとともに、専門科目で修得した様々な内容を組み合わせ、さらに卒業研究を必修として学修することで、総合力を修得する機会

を提供します。

(2)学修方法

・学修支援ツールに自らの目標や大学での活動内容を記載していくことで、学生が自ら主体的かつ長期的に学修状況を振り返り学修します。また、記載内容に対して、グループ担任からコメントを受けます。

・オフィスアワーなどの講義外個別学修支援を利用することで、基礎を確実に身に付けることができます。

・修得した成績についての論評を受け、学修方法などの助言を得ると同時に半期ごとの目標設定の助言を受け、学修成果の向上を目指します。

(3)学修成果の評価

・試験やレポート、課題提出等に基づき、科目ごとに設定された到達目標に対する到達度を用いて評価します。

・学部規則に定める GPA を用いて、修学指導を行います。また、GPA は、学業優秀賞、各種奨学金および大学院内部進学の対象者選抜等に用います。

・各学期末に、各科目の成績を評価観点の割合で積算し、他の履修学生と比較した学修効果測定グラフを学修支援ツール上で提示します。また学科が定めるスキル分野の単位修得状況も学修支援ツール上で提示します。

○建築・デザイン学科 空間デザイン専攻

建築・デザイン学科空間デザイン専攻では、ディプロマ・ポリシーに掲げる要件を修得するために、工学・建築学・デザイン学の幅広い専門知識と基礎力を育成します。そのために以下の教育方針の下でカリキュラムを編成します。また、必要な授業科目の流れや、各項目と授業の整合性を体系的に理解できるようにカリキュラム・マップを用意しています。

(1)学修課程

①専門知識・技能を修得し、実践する力

基礎専門科目、専門科目に座学と実験・実習、演習科目を配置し、人類の歴史と共に環境から身を守る安全な生活のために発展してきた建築技術と、あらゆる分野の基礎として急速に進展している情報技術に関する基礎から応用までの知識・技能を修得できる課程を編成します。空間デザイン学の導入教育としては「空間デザイン入門」に重点をおいた教育を行います。さらには、一級・二級建築士受験資格の獲得も可能となるように、建築設計、建築計画、建築環境工学・建築設備、構造力学・建築構造・建築材料、建築生産・法規についての授業科目を提供します。

②コミュニケーション力

共通科目に外国語群やプロジェクトスキル形成群を配置し、低年次から上位年次まで常に主体性・実行力・コミュニケーション力を修得する課程を編成します。またスポーツ実習や実験・実習科目を通じ、同様の力を培う機会を提供します。

③課題を発見し、問題を解決する力

プロジェクトスキル形成群および基礎専門科目(数学・物理)の知識や共通重点科目(情報)を活用して、課題発見力・問題解決力の修得を目指します。また、建築のインテリアから建物、地域、都市、その活動も含めた人の周りの空間について、視覚や形状のデザイン、熱やエネルギーなどの物理、都市計画のための情報システムなど、空間デザインというキーワードにより実社会で必要とされている技術、ならびに、SDGs を実現する未来社会のキーワードである Society5.0 の中核になる IoT、スマートホームやスマートシティのための最先端の技術を学ぶことができる講義と演習を実施します。これらの授業科目を通じて、課題発見力・問題解決力のさらなる修得を目指します。

④他者と協力して目的を達成する力

プロジェクトスキル形成群やスポーツ実習、実験・実習科目を通じ、他者との協働力を修得できる機会を提供します。

⑤自らを律し、学び続ける力

プレゼминаール、卒業研究を通して、倫理観と共に主体的に新しい知識・技能を修得する機会を提供します。

卒業研究には卒業論文による成果に加えて建築設計および作品制作による成果を評価対象とし

て認めます。

⑥総合力

共通科目の人文・社会・自然群において幅広い教養を身につけるとともに、専門科目で修得した様々な内容を組み合わせ、さらに卒業研究を必修として学修することで、総合力を修得する機会を提供します。

(2)学修方法

・学修支援ツールに自らの目標や大学での活動内容を記載していくことで、学生が自ら主体的かつ長期的に学修状況を振り返り学修します。また、記載内容に対して、グループ担任からコメントを受けます。

・オフィスアワーなどの講義外個別学修支援を利用することで、基礎を確実に身に付けることができます。

・修得した成績についての論評を受け、学修方法などの助言を得ると同時に半期ごとの目標設定の助言を受け、学修成果の向上を目指します。

(3)学修成果の評価

・試験やレポート、課題提出等に基づき、科目ごとに設定された到達目標に対する到達度を用いて評価します。

・学部規則に定める GPA を用いて、修学指導を行います。また、GPA は、学業優秀賞、各種奨学金および大学院内部進学の対象者選抜等に用います。

・各学期末に、各科目の成績を評価観点の割合で積算し、他の履修学生と比較した学修効果測定グラフを学修支援ツール上で提示します。また学科が定めるスキル分野の単位修得状況も学修支援ツール上で提示します。

◎医療健康科学部

(医療健康科学部統一の教育課程編成方針)

医療健康科学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる要件を修得させるために以下のように教育指針を定めて、主体的に活動できる専門性を持った多様な人材を育成し、豊かな人間性を育み、個性を大切にしながらも協調性やコミュニケーション、礼儀を重んじる良識ある社会人を輩出するように各学科のカリキュラム(教育課程)を編成します。

学修成果の評価については、各学科のカリキュラム・ポリシーに示します。

(1)共通科目において、社会で活躍するために必要な教養と柔軟な思考を養うことのできる課程を編成します。

(2)キャリア形成科目を設置し、低年次から上位年次まで常に主体性・実行力を修得できる課程を編成します。

(3)専門科目において、講義、演習等を体系的に組合せ、専門的知識・技能を効果的に修得できる課程を編成します。

(4)実験・演習、実習等を体系的に組合せ、実践的な問題発見力および解決力を育成するよう編成します。

(5)プレゼминаール、卒業研究等を通じ、修得した知識や技能を活用しながら、合わせて人間力、倫理観、コミュニケーション能力等を育成するよう編成します。

○医療科学科

医療科学科は、ディプロマ・ポリシーの各項目を達成するために以下の方針に基づいた教育課程を定め、必要な授業科目の流れや、各項目と授業の整合性を体系的に理解できるようにカリキュラム・マップを用意しています。

(1) 学修課程

①専門知識・技能を修得し、実践する力

専門科目に座学と実験・実習科目を配置し、専門に関する基礎から応用までの知識・技能を修得できる課程を編成します。

②コミュニケーション力

共通科目に外国語群やスポーツ実習群を配置し、コミュニケーション力を修得する課程を編成し

ます。また、実験・実習科目を通じ、同様の力を培う機会を提供します。

③課題を発見し、問題を解決する力

専門科目に医療機器や生体情報に関する実験・実習科目を配置し、その知識と技能を活用して、課題発見力・問題解決能力の修得を目指します。

④他者と協力して目的を達成する力

共通科目の人文・社会・自然群において、幅広い教養を身につけるとともに、スポーツ実習、実験・実習科目を通じ、他者との協働力を修得できる機会を提供します。

⑤自らを律し、学び続ける力

臨床実習やプレゼミ、卒業研究を通して、倫理観と共に主体的に新しい知識・技能を修得する機会を提供します。

⑥総合力

各科目で修得した内容を組み合わせること、また、卒業研究を必修として学修することで、総合力を修得する機会を提供します。

(2) 学修方法

・学修支援ツールに自らの目標や大学での活動内容を記載していくことで、学生が自ら主体的かつ長期的に学修状況を振り返り学修します。また、半期ごとに、修得した成績についての論評を受け、学修方法などの助言を得ると同時に、学修目標を設定し、学修成果の向上を目指します。

・臨床工学・健康科学・生活支援工学の技術者としての素養を身に付けるために e-learning システムを利用できます。

・実験・実習・演習科目においては、きめ細かい指導が受けられるように、TA(Teaching Assistant)からも助言を得ることができます。

・講義・実習などの時間だけでなく、各科目で提示したオフィスアワーで、教員から助言を得ることができます。

(3) 学修成果の評価

・試験やレポート、課題提出等に基づき、科目ごとに設定された到達目標に対する到達度を用いて評価します。

・学部規則に定める GPA を用いて、修学指導を行います。

・学修成果を具体的に把握するため、GPA 評価に基づく順位付けを実施します。また、GPA 評価と A(優)の取得数は、学業優秀賞の対象者選抜等に用います。

・各学期末に、他の履修学生と比較した学修効果測定グラフを学修支援ツール上で提示します。また、学科が定めるスキル分野の単位取得状況も学修支援ツール上で提示します。

・臨床工学技士や医療機器エンジニアまたは知能情報エンジニアとしての基礎知識を確認するため、実力テストを実施します。

○理学療法学科

理学療法学科は、ディプロマ・ポリシーの各項目を達成するために以下の方針に基づいた教育課程を定め、必要な授業科目の流れや、各項目と授業の整合性を体系的に理解できるようにカリキュラム・マップを用意しています。

(1) 学修課程

①専門知識・技能を修得し、実践する力

(a) 基礎的領域では、解剖学や生理学などの基礎医学、人体の運動の基礎を修得する運動学など、人体の構造、機能、運動の基本となる医学的知識を修得できる課程を編成します。さらに、バイオメカニクスや福祉環境に関する基本的な工学知識の修得を目指します。これらの科目は、その後の学修のための知識の根幹となる科目です。

(b) 応用的領域では、理学療法の対象となる疾病や外傷について医学的知識を修得できる課程を編成します。さらに、社会的ニーズの高い予防に関する知識、将来リーダーとして活躍するために必要な医療関係法規や管理学の修得を目指します。これらの科目は実践的な理学療法を学修するため必要となる科目です。

(c) 実践的領域では、運動療法、物理療法、義肢装具学、評価学など理学療法の各領域の知識、技術を学ぶとともに、疾患ごとの理学療法の実践を、演習を交えて修得できる課程を編成し

ます。さらに、臨床現場でのチームアプローチやスポーツ障害、地域医療の実際の修得を目指します。これらの科目は、将来、多様な社会ニーズに対応し、第一線で活躍できる理学療法士になるため必要な科目です。

②コミュニケーション力

医療職として要求されるマナーや態度、心構えなどを養い、コミュニケーション力の修得を目指します。

③課題を発見し、問題を解決する力

卒業研究において、主に問題解決能力を養うための研究に取組み、その力の修得を目指します。

④他者と協力して目的を達成する力

卒業研究において、他者と協力して目的を達成する力の修得を目指します。

⑤自らを律し、学び続ける力

キャリア形成科目では専門職の生涯学習システムを学修して生涯にわたって学び続ける姿勢を形成します。

⑥総合力

臨床実習において実際の臨床現場で理学療法の実戦を経験し、学んできた知識や技術の統合を行い、理解を深めることを目指します。これらの科目は、これまで修得してきた知識や技術の集大成となる重要な科目です。

(2) 学修方法

- ・学修支援ツールを利用して4年間の学修体系を確認しながら学修します。
- ・e-learningにより、国家試験対策などの効率的な学修を行います。
- ・低学年次からゼミ配属され、きめ細やかな指導を受けることができます。
- ・オフィスアワーの時間を利用することにより、個別の学修相談を受けることができます。

(3) 学修成果の評価

- ・試験やレポート、課題提出等に基づき、科目ごとに設定された到達目標に対する到達度を用いて評価します。
- ・学部規則に定める GPA を用いて、各期に修学指導を行います。
- ・各期ごとに、学修効果測定グラフを学修支援ツール上に提示します。
- ・理学療法士としての基礎知識を確認する基礎領域の実力テストを実施します。
- ・理学療法士国家試験の模擬試験を実施し、総合的な実力を把握します。

○健康スポーツ科学科

健康スポーツ科学科はディプロマ・ポリシーの各項目を達成するために以下の方針に基づいた教育課程を定め、必要な授業科目の流れや、各項目と授業との整合性を体系的に理解できるようにカリキュラム・マップを用意しています。

(1) 学修課程

①専門知識・技能を修得し、実践する力

専門科目に講義科目と実技・実習・演習科目を配置し、専門に関する基礎から応用までの知識・技能を修得できる課程を編成します。

②コミュニケーション力

共通科目に外国語群や人文・社会・自然群(総合ゼミナール、日本語上達法)を配置し、コミュニケーション力を修得する課程を編成します。また、各種スポーツ種目の実技科目や指導実習を通じて同様の力を養う機会を提供します。

③課題を発見し、問題を解決する力

専門科目における基礎科学の知識やスポーツ情報科目を活用して、課題発見力・問題解決力の修得を目指します。

④他者と協力して目的を達成する力

共通科目の人文・社会・自然群において幅広い教養を身に付けるとともに、専門科目の実技・実習・演習科目を通じ、他者との協働力を修得できる機会を提供します。

⑤自らを律し、学び続ける力

プレゼミナール、卒業研究を通して、倫理観と共に主体的に新しい知識・技能を修得する機会を

提供します。

⑥総合力

各科目で修得した内容を組み合わせること、また卒業研究を必修として学修することで、総合力を修得する機会を提供します。

(2) 学修方法

・学修支援ツールに自らの目標や大学での活動内容を記載していくことで、学生が主体的かつ長期的に学修状況を振り返り学修します。また、記載内容に対してグループ担任からコメントを受けます。

・オフィスアワーなどの講義外個別学修支援を利用することで、基礎を確実に身に付けることができます。

・修得した成績についての論評を受け、学修方法などの助言を得ると同時に半期ごとの目標設定の助言を受け、学修成果の向上を目指します。

(3) 学修成果の評価

・試験やレポート、課題提出等に基づき、科目ごとに設定された到達目標に対する到達度を用いて評価します。

・学部規則に定める GPA を用いて、修学指導を行います。また、GPA は学業優秀賞、各種奨学金および大学院内部進学の対象者選抜等に用います。

・各学期末に、各科目の成績を評価観点の割合で積算し、他の履修学生と比較した学修効果測定グラフを学修支援ツール上で提示します。また学科が定めるスキル分野の単位修得状況も学修支援ツール上で提示します。

・学修効果を具体的に把握するため、GPA 評点に基づく順位付けを実施します。

◎総合情報学部

(総合情報学部統一の教育課程編成方針)

総合情報学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる要件を修得させるために、各学科において以下の教育方針の下で科学技術力、芸術表現力、情報活用力を基盤にした総合的な情報力の修得に対応するカリキュラム(教育課程)を編成し実学教育を実行します。

学修成果の評価については、各学科のカリキュラム・ポリシーに示します。

(1) すべての学生を対象とした「共通科目」を設置し、知識と教養を養うとともに学習方法の習得を目指し、さらには将来の進路選択をサポートする充実したキャリア支援科目を編成します。

(2)「専門科目」では、各々の学問的方法を体系的に学び、問題の本質を見抜く洞察力や判断力の習得および創造力の鍛錬を目指し、将来の情報技術の進歩や革新に対応できる人材を育成します。

(3) 実践的な科学技術力や芸術表現力の向上を図るために、情報技術の応用ならびにコンテンツ制作活動を行う課題解決型学習方法を取り入れます。

(4)「卒業研究」または「卒業制作」において、実践的な問題解決力とコミュニケーション能力を育成し、さらにこれまでに身に付けた知識、技能・技術、思考力及び表現力等を活用し、それらを総合的にまとめるべく丁寧な個別指導を通じ、専門的人材を育成します。

○デジタルゲーム学科

デジタルゲーム学科は、ディプロマ・ポリシーの各項目を達成するために以下の方針に基づいた教育課程を定め、必要な授業科目の流れや、各項目と授業の整合性を体系的に理解できるようにカリキュラム・マップを用意しています。

(1) 学修課程

①専門知識・技能を修得し、実践する力

専門科目に座学と実験・実習、演習科目を配置し、専門に関する基礎から応用までの知識・技能を修得できる課程を編成します。

②コミュニケーション力

共通科目に外国語群やキャリア形成群を配置し、コミュニケーション力を修得する課程を編成します。またスポーツ実習や実験・実習科目を通じ、同様の力を培う機会を提供します。

③課題を発見し、問題を解決する力

キャリア形成群並びに、専門科目の知識や課題解決型科目を活用して、課題発見力・問題解決力の修得を目指します。

④他者と協力して目的を達成する力

共通科目の人文・社会・自然群において幅広い教養を身に付けるとともに、課題解決型科目やスポーツ実習、実験・実習科目を通じ、他者との協働力を修得できる機会を提供します。

⑤自らを律し、学び続ける力

プレゼミ、ゼミナール、卒業研究、卒業制作を通して、倫理観と共に主体的に新しい知識・技能を修得する機会を提供します。

⑥総合力

各科目で修得した内容を組み合わせること、また卒業研究あるいは卒業制作を必修として学修することで、総合力を修得する機会を提供します。

(2) 学修方法

・学修支援ツールに自らの目標や大学での活動内容を記載していくことで、学生が自ら主体的かつ長期的に学修状況を振り返り学修します。また、記載内容に対して、グループ担任もしくは指導教員からコメントを受けます。

・オフィスアワーなどの講義外個別学修支援を利用することで、基礎を確実に身に付けることができます。

・修得した成績についての論評を受け、学修方法などの助言を得ると同時に半期ごとの目標設定の助言を受け、学修成果の向上を目指します。

(3) 学修成果の評価

・試験やレポート、課題提出等に基づき、科目ごとに設定された到達目標に対する到達度を用いて評価します。

・学部規則に定める GPA を用いて、修学指導を行います。また、GPA は、学業優秀賞、各種奨学金および大学院内部進学の対象者選抜等に用います。

・各学期末に、各科目の成績を評価観点の割合で積算し、他の履修学生と比較した学修効果測定グラフを学修支援ツール上で提示します。また学科が定めるスキル分野の単位修得状況も学修支援ツール上で提示します。

・学修成果を具体的に把握するため、GPA 評点に基づく順位付けを実施します。

○ゲーム&メディア学科

ゲーム&メディア学科は、ディプロマ・ポリシーの各項目を達成するために以下の方針に基づいた教育課程を定め、必要な授業科目の流れや、各項目と授業の整合性を体系的に理解できるようにカリキュラム・マップを用意しています。

(1) 学修課程

①専門知識・技能を修得し、実践する力

専門科目に座学と実験・実習、演習科目を配置し、専門に関する基礎から応用までの知識・技能を修得できる課程を編成します。

②コミュニケーション力

共通科目に外国語群やキャリア形成群を配置し、コミュニケーション力を修得する課程を編成します。また、グループ制作や課題解決型プロジェクト科目を通じ、立場や意見が異なる他者との中で互いの意見を交換・共有することでコミュニケーション力を培う機会を提供します。

③課題を発見し、問題を解決する力

キャリア形成群と専門科目の知識や課題解決型科目を活用し、課題発見力・問題解決力の修得を目指します。

④他者と協力して目的を達成する力

共通科目の人文・社会・自然群において幅広い教養を身に付けるとともに、グループ制作や課題解決型プロジェクト科目を通じ、立場や意見が異なる他者との中で自らの役割を担い、他者と協調し、物事を成し遂げる機会を提供します。

⑤自らを律し、学び続ける力

プレゼミ、ゼミナール、卒業研究、卒業制作を通して、倫理観と共に主体的に新しい知識・技能を

修得する機会を提供します。

⑥総合力

各科目で修得した内容を組み合わせること、また、卒業研究あるいは卒業制作を必修として学修することで、総合力を修得する機会を提供します。

(2) 学修方法

・学修支援ツールに自らの目標や大学での活動内容を記載していくことで、学生が自ら主体的かつ長期的に学修状況を振り返り学修します。また、記載内容に対して、グループ担任、もしくは、指導教員からコメントを受けます。

・オフィスアワーなどの講義外個別学修支援を利用することで、基礎を確実に身に付けることができます。

・修得した成績についての論評を受け、学修方法などの助言を得ると同時に半期ごとの目標設定の助言を受け、学修成果の向上を目指します。

(3) 学修成果の評価

・試験やレポート、課題提出等に基づき、科目ごとに設定された到達目標に対する到達度を用いて評価します。

・学部規則に定める GPA を用いて、修学指導を行います。また、GPA は学業優秀賞、各種奨学金および大学院内部進学の対象者選抜等に用います。

・各学期末に、各科目の成績を評価観点の割合で積算し、他の履修学生と比較した学修効果測定グラフを学修支援ツール上で提示します。また、学科が定めるスキル分野の単位修得状況も学修支援ツール上で提示します。

・学修成果を具体的に把握するため、GPA 評点に基づく順位付けを実施します。

○情報学科

情報学科は、ディプロマ・ポリシーの各項目を達成するために以下の方針に基づいた教育課程を定め、必要な授業科目の流れや、各項目と授業の整合性を体系的に理解できるようにカリキュラム・マップを用意しています。

(1) 学修課程

①専門知識・技能を修得し、実践する力

基礎専門科目、専門科目に座学と実験・実習、演習科目を配置し、専門に関する基礎から応用までの知識・技能を修得できる課程を編成します。

②コミュニケーション力

共通科目に外国語群を配置し、コミュニケーション力を修得する課程を編成します。またスポーツ実習や実験・実習・演習科目を通じ、同様の力を培う機会を提供します。

③課題を発見し、問題を解決する力

基礎専門科目(数学・物理・情報)の知識や、専門科目を活用して課題発見力・問題解決力の修得を目指します。

④他者と協力して目的を達成する力

共通科目の人文・社会・自然群において幅広い教養を身に付けるとともに、スポーツ実習や、実験・実習・演習科目を通じ、他者との協働力を修得できる機会を提供します。

⑤自らを律し、学び続ける力

プレゼミ、卒業研究、特別研究を通して、倫理観と共に主体的に新しい知識・技能を修得する機会を提供します。

⑥総合力

各科目で修得した内容を組み合わせること、また卒業研究を必修として学修することで、総合力を修得する機会を提供します。

(2) 学修方法

・学修支援ツールに自らの目標や大学での活動内容を記載していくことで、学生が自ら主体的かつ長期的に学修状況を振り返り学修します。また、記載内容に対して、グループ担任からコメントを受けます。

・オフィスアワーなどの講義外個別学修支援を利用することで、基礎を確実に身に付けることができます。

・修得した成績についての論評を受け、学修方法などの助言を得ると同時に半期ごとの目標設定の助言を受け、学修成果の向上を目指します。

(3) 学修成果の評価

・試験やレポート、課題提出等に基づき、科目ごとに設定された到達目標に対する到達度を用いて評価します。

・学部規則に定める GPA を用いて、成績評価を行います。その評価にもとづき学修指導を行います。また GPA は、学業優秀賞、各種奨学金および大学院内部進学の対象者選抜等に用いられます。

・各学期末に、学修効果測定グラフを学修支援ツール上で提示します。

・学修成果を具体的に把握するため、GPA 評点に基づく順位付けを実施します。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：HP に掲載。<https://www.osakac.ac.jp/about/policy/faculty/>)

(概要)

(全学統一の入学者受入れ方針)

大阪電気通信大学は、専門の学術を教授研究し、知的並びに道徳的な完成を期し、更に応用能力を展開させ得る人材の育成を目的としています。そのために、基本理念に掲げる大阪電気通信大学人としての人間像を目指し「手と頭と心」を同時に動かして夢を形にできる人材の養成を目標とした実践的な教育を進めています。

本学は、そのような教育を進めるにあたり、高等学校等の正課及び正課外での学習を通じて基礎的な知識や技能を習得し、次のような意欲と情熱をもった入学者を求めます。

(1)【手】自らの目標に向かって努力を惜しまない者

(2)【頭】得意な分野の知識や技能を活かし、社会への貢献をめざす者

(3)【心】大阪電気通信大学を母校として愛し、仲間とともに励まし学び合える者

◎工学部

(工学部統一の入学者受入れ方針)

工学部は、産業社会の基盤である総合的な工学技術を支え発展させるために、工学技術の基礎知識および応用に関する実学教育を通じて、学生の学修成果の向上および学修目標の達成を支援し、広く社会および産業界で活躍できる専門的人材を育成することを目的としています。そのような人材を育成するにあたり、高等学校等の正課および正課外での学習を通じて基礎的な知識や技能を習得し、次のような意欲と情熱をもった入学者を求めます。

(1)ものづくりに興味をもち、仲間と協働して積極的に取り組む姿勢と意欲をもっている者。

(2)持続可能な社会の形成に貢献したいと考えている者。

(3)幅広い分野の技術者として活躍したいと考えている者。

(4)科学技術を身に付けた教師になって、社会に貢献したいと考えている者。

○電気電子工学科

電気電子工学科は、電気電子情報社会を支える 5 分野(半導体デバイス、電気電子回路、計測制御、情報技術、電力)について基礎から学び、高度情報化社会を支える基盤技術である電気電子工学に含まれる多くの技術分野のうち、学生自身が適性ある分野を講義・実習を通して見極め、自らの目標を設定したうえで、多彩に配置された実験・演習を通して社会で活躍できる技術力を修得した人材を育成することを目的としています。そのような人材を育成するにあたり、次のような知識・意欲・情熱を持った入学者を求めます。

(知識・技能)

(1)高等学校までの履修教科のうち数学を学び、事象を数学的に考察し表現できる能力を身に付けている者。

(2)高等学校までの履修教科のうち理科を学び、自然の事物・現象について科学的に探究する能力を身に付けている者。

(3)高等学校までの履修教科のうち外国語(英語)を学び、基本的なコミュニケーションに必要

な知識技能を身に付けている者。

(思考力・判断力・表現力)

(4)これまでの知識を基に、未知の現象について、深い考察と的確な判断に基づく確認作業により、その現象を解明し、説明することができる者。

(5)これまでの知識を基に、自由な発想によって新たな価値を創造することができる者。

(主体性・多様性・協調性)

(6)電気電子工学の専門知識の修得や技能獲得について、主体的に考え、積極的に取組むことができる者。

(7)エネルギー、電気電子機器、情報システム分野の勉強に興味を持ち、意欲的に取組むことができる者。

(8)電気電子工学分野のモノづくり、管理・保全、研究開発、教育などで社会に貢献するという高い志を持って努力することができる者。

○電子機械工学科

電子機械工学科は、ロボットや IoT、自動運転に代表される「メカトロニクス」の基礎である機械、電気・電子、計測・制御、情報の 4 分野の知識を教授すると共に、学生の適性に即した専門性の高い実験・実習による実践的な深化教育を通して、将来の超スマート社会の実現を担うメカトロニクスエンジニアを育成することを目的としています。そのような人材を育成するにあたり、次のような知識・意欲・情熱をもった入学者を求めます。

(知識・技能)

(1)高等学校までの履修教科のうち理科、または工業科系科目を学び、自然の事物・現象や産業技術について科学的・工学的に探究する能力を身に付けている者。

(2)高等学校までの履修教科のうち数学を学び、事象を数学的に考察し表現できる能力を身に付けている者。

(3)高等学校までの履修教科のうち情報を学び、情報や情報技術に関する科学的・工学的な見方や考え方を身に付けている者。

(4)高等学校までの履修教科のうち外国語(英語)を学び、基本的なコミュニケーションに必要な知識技能を身に付けている者。

(思考力・判断力・表現力)

(5)これまでの知識を基に、未知の現象について、深い考察と的確な判断に基づく確認作業により、その現象を解明し、説明することができる者。

(6)これまでの知識を基に、自由な発想によって新たな価値を創造することができる者。

(主体性)

(7)学科が設置している座学、実習、演習科目および卒業研究においてグループで協力し、十分に安全にかつ自主的に参加して学修する意欲がある者。

○機械工学科

機械工学科は、社会活動の基盤を支えるモノづくりに必要不可欠な機械工学の専門知識とそれを活かすための技術を総合的に教授することによって、国内外の産業界で広く活躍できる機械技術者を育成することを目的としています。そのような人材を育成するにあたり、次のような知識・意欲・情熱を持った入学者を求めます。

(知識・技能)

(1)高等学校までの履修教科のうち数学を学び、事象を数学的に考察し表現できる能力を身に付けている者。

(2)高等学校までの履修教科のうち理科を学び、自然の事物・現象について科学的に探究する能力を身に付けている者。

(3)高等学校までの履修教科のうち情報を学び、情報や情報技術に関する科学的あるいは社会的な見方や考え方を身に付けている者。

(4)高等学校までの履修教科のうち外国語(英語)を学び、基本的なコミュニケーションに必要な知識技能を身に付けている者。

(思考力・判断力・表現力)

(5)これまでの知識を基に、自由な発想によって新たな価値を創造することができる者、または取組む意欲がある者。

(主体性・多様性・協調性)

(6)モノづくりについて、主体的に考え、他者と協力しながら、学修や研究に積極的に取組むことができる者。

(7)機械工学の専門知識を積極的に身に付けたいと考える者。

○基礎理工学科 数理科学専攻

基礎理工学科 数理科学専攻は、広範な科学知識、理数系的な思考力、高いコミュニケーション能力を兼ね備えた理数系ジェネラリストとして現代の社会に広く貢献する、技術者・研究者や教育者(数学・理科教員等)を育成することを目的としています。そのような人材を育成するにあたり、次のような知識、思考力、主体性などをもった入学者を求めます。

(知識・技能)

(1)高等学校までの履修教科のうち国語を学び、コミュニケーションの基本的な知識技能を身に付けている者。

(2)高等学校までの履修教科のうち数学を学び、事象を数学的に考察し表現できる能力を身に付けている者。

(3)高等学校までの履修教科のうち理科を学び、自然の事物・現象を理解し、科学的に探究する能力を身に付けている者。

(4)高等学校までの履修教科のうち外国語(英語)を学び、基本的なコミュニケーションに必要な知識技能を身に付けている者。

(思考力・判断力・表現力)

(5)これまでの知識を基に、自由な発想によって自ら探求し、新たな価値を創造することができる者、または取組む意欲がある者。

(6)自然科学に興味があり、科学的な論理的思考力、判断力、表現力がある者、またはそれらの向上に取組む意欲がある者。

(主体性・多様性・協調性)

(7)問題の発見やその解決について、主体的に考え、積極的に取組むことができる者。

(8)理数系ジェネラリストとして様々な人と協調し、社会生活を豊かにしたいと考える者。

○基礎理工学科 環境化学専攻

基礎理工学科 環境化学専攻は、人の健康維持に関与する食品に関する技術の基礎および応用力の包括的な教授による「食環境」を守る技術の獲得により、未来に貢献しうる専門的な人材を育成することを目的としています。そのような人材を育成するにあたり、次のような知識・意欲・情熱をもった入学者を求めます。

(知識・技能)

(1)高等学校までの履修教科のうち理科および数学を学び、自然の事物・現象について論理的に探究し、表現できる能力を身に付けている者。

(2)高等学校までの履修教科のうち外国語(英語)を学び、基本的なコミュニケーションに必要な知識技能を身に付けている者。

(3)高等学校までの履修教科のうち国語を学び、コミュニケーションの基本的な知識技能を身に付けている者。

(思考力・判断力・表現力)

(4)これまでの知識を基に、自由な発想によって新たな価値を創造することができる者、または取組む意欲がある者。

(主体性・多様性・協調性)

(5)身のまわりの環境について、科学的な観点から主体的に考え、様々な人と力を合わせ積極的に取組むことができる者。

◎情報通信工学部

(情報通信工学部の入学受入れ方針)

情報通信工学部は、現代社会の基盤技術である情報通信工学にかかわる基礎知識および応用に関する実学教育を通じて、学生の学修成果の向上および学修目標の達成を支援し、情報通信技術をベースとして広く社会および産業界で活躍できる専門的人材を育成することを目的としています。そのような人材を育成するにあたり、高等学校等の正課および正課外での学習を通じて基礎的な知識や技能を習得し、次のような意欲と情熱をもった入学者を求めます。

- (1)情報・通信分野に強い関心を持ち、社会で活躍したいと考えている者。
- (2)論理的思考と自由な発想で、新たな価値を創造したいと考えている者。
- (3)科学技術を身に付けた教師になって、社会に貢献したいと考えている者

○情報工学科

情報工学科は、人間の活動に不可欠な「情報」を扱うシステムを作り出すための基盤となるコンピュータハードウェア・ソフトウェア・ネットワークに関わる知識と技術を、数理的な知識体系に基づいて、基礎から応用に至るまで実学教育を通して教授することにより、広く社会及び産業界で活躍できる専門的人材の育成を目的としています。そのような人材を育成するにあたり、次のような知識・意欲をもった入学者を求めます。

(知識・技能)

- (1)高等学校までの履修教科のうち国語を学び、コミュニケーションの基本的な知識技能を身に付けている者。
- (2)高等学校までの履修教科のうち外国語(英語)を学び、基本的なコミュニケーションに必要な知識技能を身に付けている者。
- (3)高等学校までの履修教科のうち情報を学び、情報や情報技術に関する科学的あるいは社会的な見方や考え方を身に付けている者。
- (4)高等学校までの履修教科のうち数学を学び、事象を数学的に考察し表現できる能力を身に付けている者。
- (5)高等学校までの履修教科のうち理科を学び、自然の事物・現象について科学的に探究する能力を身に付けている者。

(思考力・判断力・表現力)

- (6)これまでの知識を基に、未知の問題について、深い考察と的確な判断に基づく確認作業により、その問題を解決することができる者。または取組む意欲がある者。

(主体性・多様性・協調性)

- (7)社会貢献や自己のキャリア形成について、主体的に考え、積極的に取組むことができる者。

○通信工学科

通信工学科は、情報通信社会を支える 3 要素(ブロードバンド・マルチメディア・インターネット)の技術について基礎から教授することにより、情報化社会の発展に貢献する通信のスペシャリストの育成を目的としています。そのような人材を育成するにあたり、次のような知識・意欲・情熱をもった入学者を求めます。

(知識・技能)

- (1)高等学校までの履修教科のうち数学を学び、事象を数学的に考察し表現できる能力を身に付けている者。
- (2)高等学校までの履修教科のうち理科を学び、自然の事物・現象について科学的に探究する能力を身に付けている者。
- (3)高等学校までの履修教科のうち情報を学び、情報や情報技術に関する科学的あるいは社会的な見方や考え方を身に付けている者。
- (4)高等学校までの履修教科のうち国語を学び、コミュニケーションの基本的な知識技能を身に付けている者。
- (5)高等学校までの履修教科のうち外国語(英語)を学び、基本的なコミュニケーションに必要な知識技能を身に付けている者。

(思考力・判断力・表現力)

(6)これまでの知識を基に、未知の現象について、深い考察と的確な判断に基づく確認作業により、その現象を解明し、説明することができる者。

(7)これまでの知識を基に、自由な発想によって新たな価値を創造することができる者。

(主体性・多様性・協調性)

(8)新しい目標を自ら設定することや未解決の問題について、主体的に考え、その実現と解決に積極的に取り組むことができる者。

(9)様々な価値観を持つ意見に耳を傾け、全体を配慮して調整することができるバランス感覚を持っている者。

◎建築・デザイン学部

(建築・デザイン学部統一の入学受入れ方針)

建築・デザイン学部は、人間を取り巻くあらゆる空間の設計・造形と構築に関する知識と技術の実学教育を通じて、学生の学修成果の向上および学修目標の達成を支援し、広く社会および産業界で活躍できる専門的人材を育成することを目的としています。そのような人材を育成するにあたり、高等学校等の正課および正課外での学習を通じて基礎的な知識や技能を習得し、次のような意欲と情熱をもった入学者を求めます。

(1)安全で快適な暮らしの実現に興味をもち、積極的に働きかける姿勢と意欲のある者。

(2)日々進化する技術の修得を目指し、その活用に取り組む姿勢と意欲のある者。

(3)仲間と協働して目標の達成に取り組む姿勢と意欲のある者。

○建築・デザイン学科 建築専攻

建築・デザイン学科 建築専攻は、すべての人々が安全で快適に生活できる社会を支える都市と建築、インテリアにいたる幅広いスケールの実空間や、デジタル技術により構築された情報空間など、現実と仮想を問わない、人間を取り巻くありとあらゆる空間の設計・造形と構築に関する知識と技術を講義する実学教育を通じて、学生の人間的成長を支援し、広く社会および産業界で活躍でき、持続可能な社会の発展に貢献することができる専門的人材を育成することを目的としています。

そのような人材を育成するにあたり、次のような知識・意欲・情熱をもった入学者を求めます。

(知識・技能)

(1)高等学校までの履修教科のうち理科、工業化系科目を学び、自然の事物・現象や産業技術について科学的・工学的に探求する能力を身に付けている者。

(2)高等学校までの履修教科のうち数学を学び、事象を数学的に考察し表現できる能力を身に付けている者。

(3)高等学校までの履修教科のうち情報を学び、情報や情報技術に関する科学的・工学的な見方や考え方を身に付けている者。

(4)高等学校までの履修教科のうち外国語(英語)を学び、基本的なコミュニケーションに必要な知識技能を身に付けている者。

(思考力・判断力・表現力)

(5)これまでの知識を基に、自由な発想によって新たな価値を創造することができる者、または取り組む意欲がある者。

(主体性・多様性・協調性)

(6)建築の専門知識や技能を学びたいと強く望み、主体的に学ぶことができる者。

(7)建物やまちづくりについて、人々と積極的に交流しながら、取り組むことができる者。

(8)建築技術者を目指して、真剣に取り組むことができる者。

○建築・デザイン学科 空間デザイン専攻

建築・デザイン学科空間デザイン専攻は、すべての人々が安全で快適に生活できる社会を支える都市と建築、インテリアにいたる幅広いスケールの実空間や、デジタル技術により構築された情報空間など、現実と仮想を問わない、人間を取り巻くありとあらゆる空間の設計・造形と構築

に関する知識と技術を講義する実学教育を通じて、学生の人間的成長を支援し、広く社会および産業界で活躍でき、持続可能な社会の発展に貢献することができる専門的人材を育成することを目的としています。

そのような人材を育成するにあたり、次のような知識・意欲・情熱をもった入学者を求めます。

(知識・技能)

(1) 高等学校までの履修教科のうち理科または工業化系科目を学び、自然の事物・現象や産業技術について科学的・工学的に探求する能力を身に付けている者。

(2) 高等学校までの履修教科のうち国語または数学を学び、事象を言語や記号によって論理的に考察し表現できる能力を身に付けている者。

(3) 高等学校までの履修教科のうち情報を学び、情報や情報技術に関する科学的・工学的あるいは社会的な見方や考え方を身に付けている者。

(4) 高等学校までの履修教科のうち外国語(英語)を学び、基本的なコミュニケーションに必要な知識技能を身に付けている者。

(思考力・判断力・表現力)

(5) これまでの知識を基に、自由な発想によって新たな価値を創造することができる者、または取組む意欲がある者。

(主体性・多様性・協調性)

(6) 空間デザインの専門知識や技能を学びたいと強く望み、主体的に学ぶことができる者。

(7) 現実の都市や建築、データによる情報空間など様々な空間デザインについて人々と積極的に交流しながら、取組むことができる者。

(8) 空間デザインの専門技術者を目指して、真剣に取組むことができる者。

◎医療健康科学部

(医療健康科学部統一の入学者受入れ方針)

医療健康科学部は、人々の生活の質の向上を目指し、医療、健康、福祉およびリハビリテーションに活用可能な技術の基礎知識および応用に関する実学教育を通じて、学生の学修成果の向上および学修目標の達成を支援し、広く社会で主体的に活躍できる専門的人材を育成することを目的としています。そのような人材を育成するにあたり、高等学校等の正課および正課外での学習を通じて基礎的な知識や技能を習得し、次のような意欲と情熱をもった入学者を求めます。

(1) 自ら考え行動しようとする意欲の高い者。

(2) 医療あるいは福祉の分野で人の役にたちたいと考えている者。

(3) スポーツや科学技術を通して健康社会をつくる意欲をもった者。

○医療科学科

医療科学科は、安心・安全な医療・健康を実現するために、医学及び工学を基盤とした医療健康科学について教授研究し、生体計測とデータ処理技術に精通した知能情報エンジニア、医療健康機器の開発や医療安全管理技術に深い理解を有する医療機器のスペシャリスト、臨床現場に貢献できる人間力・応用力を有した臨床工学技士を育成することを目的としています。そのような人材を育成するにあたり、次のような知識・意欲・情熱を持った入学者を求めます。

(知識・技能)

(1) 高等学校までの履修教科のうち国語を学び、コミュニケーションの基本的な知識技能を身に付けている者。

(2) 高等学校までの履修教科のうち外国語(英語)を学び、基本的なコミュニケーションに必要な知識技能を身に付けている者。

(3) 事象を数学的に考え、表現する能力を育成するために、数学について基礎知識を身に付けている者。

(4) 自然の事物・現象について、科学的に探求する能力を育成するために、物理、化学、生物の中で1科目以上について基礎知識を身に付けている者。

(5) 医療技術および情報技術、生活科学に関する科学的な考え方を育成するために、理科または工業系科目の基礎知識を身につけている者。

(思考力・判断力・表現力)

(6)知的好奇心があり、自由な発想によって新しいものを創造することができる者、または取組む意欲がある者。

(7)人々の健康、福利、権利を守る意識があり、プライバシーおよび個人情報を正しく取扱いができる者。

(主体性・多様性・協調性)

(8)医療・健康および生活科学に関する学修や研究に、主体的かつ積極的に取組むことができる者。

(9)人の尊厳と権利を尊重し、人のために行動できる意思と人の気持ちを理解する努力を続けることができる者。

○理学療法学科

理学療法学科は、責任感と豊かな人間性、論理的思考の基礎となる科学的素養とともに、最新の医療知識と技術を備えた人材を育成することを目的としています。そのような人材を育成するにあたり、次のような知識・意欲・情熱をもった入学者を求めます。

(知識・技能)

(1)高等学校までの履修教科のうち国語を学び、コミュニケーションの基本的な知識技能を身に付けている者。

(2)高等学校までの履修教科のうち外国語(英語)を学び、基本的なコミュニケーションに必要な知識技能を身に付けている者。

(3)事象を数学的に考え、表現する能力を育成するために、数学について基礎知識を身に付けている者。

(4)自然の事物・現象について、科学的に探求する能力を育成するために、物理、化学、生物の中で1科目以上について基礎知識を身に付けている者。

(5)情報や情報技術に関する科学的あるいは社会的な見方や考え方を育成するために、情報の科学、社会と情報について基礎知識を身に付けている者。

(思考力・判断力・表現力)

(6)これまでの知識を基に、自由な発想によって新たな価値を創造することができる者、または取組む意欲がある者。

(7)空間認知力、身体認知力、および対人認知力を基礎として、科学的に思考、判断、表現が出来る者、または取組む意欲がある者。

(主体性・多様性・協調性)

(8)自身のやりがいについて、主体的に考え、積極的に取組むことができる者。

(9)多様な価値観を受け入れられる者。

(10)人の役に立ちたいと考えている者、協調性を有する者。

(11)医療人を目指す者の心得として、身だしなみや喫煙の影響など健康維持の模範を意識し、自覚的に行動できる者。

○健康スポーツ科学科

健康スポーツ科学科は、科学的な視点を持ち、基礎医学やスポーツ科学・健康科学および情報処理技術の知識や技術を修得する。これにより、健康のためのライフスタイルの提言と実践的な指導ができる健康づくり運動や生涯スポーツの指導者の育成、および保健体育科教員や競技スポーツ指導者の育成を目的としています。そのような人材を育成するにあたり、次のような知識・意欲・情熱をもった入学者を求めます。

(知識・技能)

(1)高等学校までの履修教科のうち国語を学び、コミュニケーションの基本的な知識技能を身に付けている者。

(2)高等学校までの履修教科のうち外国語(英語)を学び、基本的なコミュニケーションに必要な知識技能を身に付けている者。

(3)高等学校までの履修教科のうち数学を学び、事象を数学的に考察し表現できる能力を身に付けている者。

- (4)高等学校までの履修教科のうち理科を学び、自然の事物・現象について科学的に探求する能力を身に付けている者。
- (5)情報科学、社会と情報について基礎知識を身に付けている者。
- (6)高等学校までの履修教科のうち保健・体育を学び、心身の健康維持・増進や体力の向上に関する基礎的・基本的な知識・技能を身に付けている者。
- (思考力・判断力・表現力)
- (7)これまでの知識を基に、自由な発想によって新たな価値を創造することができる者、または取組む意欲がある者。
- (8)表現力あるいは創造力や論理的思考能力がある者、またはそれらに取組む意欲がある者。
- (主体性・多様性・協調性)
- (9)健康科学・スポーツ科学において、医学・自然科学のみならず人文・社会科学までを俯瞰する広い視野を持ち、自ら学修や研究に取組める者。
- (10)人々の健康の維持・増進や体力づくりについて考え、生活の質の向上に貢献することで社会生活を豊かにしたいと考える者。

◎総合情報学部

(総合情報学部統一の入学受入れ方針)

総合情報学部は、多様な生活文化の創造を支えるために、情報技術の基礎知識および応用に関する実学教育ならびにコンテンツ制作活動を通じて、学生の学修成果の向上および学修目標の達成ならびに技能の向上を支援し、広く社会および産業界で活躍できる専門的人材を育成することを目的としています。そのような人材を育成するにあたり、高等学校等の正課および正課外での学習を通じて基礎的な知識や技能を習得し、次のような意欲と情熱をもった入学者を求めます。

- (1)感性豊かで、ものづくりやデザインに対する強い主体的動機をもっている者。
- (2)人を楽しませることを主体的に思考し、意欲をもって努力する姿勢のある者。
- (3)知識・技能の獲得や実践について、主体的に学ぶ姿勢のある者。
- (4)コミュニケーション能力を高めることで、協調性をもって活動しようとしている者。

○デジタルゲーム学科

デジタルゲーム学科は、デジタルゲームを軸とする主に対話的なエンタテインメントコンテンツ分野の学際的研究や制作を通して、幅広い意味でのエンタテインメントに関する高度な知識と技術の修得を支援し、協調性とコミュニケーション能力を持って、広く社会及び産業界で継続的に貢献できる人材を育成することを目的としています。そのような人材を育成するにあたり、次のような知識・意欲・情熱をもった入学者を求めます。

(知識・技能)

- (1)高等学校までの履修教科のうち数学を学び、事象を数学的に考察し表現できる能力を身に付けている者。
- (2)高等学校までの履修教科のうち国語を学び、コミュニケーションの基本的な知識技能を身に付けている者。
- (3)高等学校までの履修教科のうち外国語(英語)を学び、基本的なコミュニケーションに必要な知識技能を身に付けている者。
- (4)高等学校までの履修教科のうち情報を学び、情報や情報技術に関する科学的あるいは社会的な見方や考え方を身に付けている者。
- (5)高等学校までの履修教科のうち理科を学び、自然の事物・現象について科学的に探究する能力を身に付けている者。
- (思考力・判断力・表現力)
- (6)これまでの知識を基に、自由な発想によって新たな価値を創造することができる者、または取組む意欲がある者。
- (7)論理的思考能力あるいは視覚的表現力や芸術的創造力がある者。

(主体性・多様性・協調性)

(8)工学・科学・芸術を俯瞰する広い視野を持ち、自ら学修や研究に取り組める者。

(9)デジタル技術を応用したゲームやメディアアートを自らつくり、それが広く供されることで社会生活を豊かにしたいと考える者。

○ゲーム&メディア学科

ゲーム&メディア学科は、エンタテインメントコンテンツの企画・制作・教育を軸とするデジタル分野の学際的研究や制作を行い、関連するメディアの幅広い知識と高度な制作技術を修得し、それらのコンテンツの意義や魅力を広く社会に発信することでビジネスにつなげ、社会で継続的に貢献できる人材を育成することを目的としています。そのような人材を育成するにあたり、次のような知識・意欲・情熱をもった入学者を求めます。

(知識・技能)

(1)高等学校までの履修教科のうち国語を学び、コミュニケーションの基本的な知識技能を身に付けている者。

(2)高等学校までの履修教科のうち外国語(英語)を学び、基本的なコミュニケーションに必要な知識技能を身に付けている者。

(3)高等学校までの履修教科のうち情報を学び、情報や情報技術に関する科学的あるいは社会的な見方や考え方を身に付けている者。

(4)高等学校までの履修教科のうち数学を学び、事象を数学的に考察し表現できる能力を身に付けている者。

(5)高等学校までの履修教科のうち理科を学び、自然の事物・現象について科学的に探究する能力を身に付けている者。

(思考力・判断力・表現力)

(6)これまでの知識を基に、自由な発想によって新たな価値を創造することができる者、または、取り組む意欲がある者。

(7)視覚的表現力あるいは芸術的創造力や論理的思考力がある者、または、取り組む意欲がある者。

(主体性・多様性・協調性)

(8)芸術・科学・工学を俯瞰する広い視野を持ち、自ら学修や研究に取り組める者。

(9)デジタル技術を応用したゲームやメディアアートを理解し、それを様々なメディア・手法、または、様々な人のアイデア等を活用して伝え広げること社会生活を豊かにしたいと考える者。

○情報学科

情報学科は、進化し続ける ICT や IoT 技術の基盤となる知識の修得、即戦力となり得る実践力の獲得、コミュニケーション能力等を中心とした社会性の向上の 3 項目を教育目標とし、情報のスペシャリストとして社会で活躍できる人材の育成を目的としています。そのような人材を育成するにあたり、次のような入学者を求めます。

(知識・技能)

(1)高等学校で数学に関する科目を学んだと同等かつ本学科において情報学を学ぶために必要な数学の基礎能力を有する者。

(2)高等学校で情報に関する科目を学んだと同等の情報リテラシーまたは情報科学の基礎知識を有する者。

(3)高等学校で国語に関する科目を学んだと同等の文章読解および文章作成のための基礎知識を有する者。

(4)高等学校で英語に関する科目を学んだと同等の英語会話、英語読解、英語作文のための基礎知識を有する者。

(思考力・判断力・表現力)

(5)情報処理技術者として論理的に物事を考え説明できる者、またはそれを目指す意欲のある者。

(主体性・多様性・協調性)

(6)情報学を積極的に学ぶ意思を持ち、主体的に物事に取り組むことができる者。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：HPに掲載。<https://www.osakac.ac.jp/about/educational-information/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	3人	－					3人
工学部	－	24人	10人	2人	0人	0人	36人
情報通信工学部	－	12人	12人	0人	0人	0人	24人
建築・デザイン学部	－	10人	5人	1人	0人	0人	16人
医療健康科学部	－	15人	6人	6人	0人	0人	27人
総合情報学部	－	20人	10人	3人	0人	0人	33人
教養部（一般教育）	－	10人	12人	5人	0人	0人	27人
その他	－	1人	1人	4人	0人	0人	6人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		193人					193人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：HPに掲載。 https://research.osakac.ac.jp/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関する事

[illegible]

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
工学部	435 人 (100%)	40 人 (9.2%)	385 人 (88.5%)	10 人 (2.3%)
情報通信工学部	210 人 (100%)	16 人 (7.6%)	187 人 (89.0%)	7 人 (3.3%)
医療福祉工学部	11 人 (100%)	0 人 (0.0%)	10 人 (90.9%)	1 人 (9.1%)
医療健康科学部	159 人 (100%)	18 人 (11.3%)	138 人 (86.8%)	3 人 (1.9%)
総合情報学部	334 人 (100%)	13 人 (3.9%)	302 人 (90.4%)	19 人 (5.7%)
合計	1149 人 (100%)	87 人 (7.6%)	1022 人 (88.9%)	40 人 (3.5%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考) 医療福祉工学部は、2020 年 4 月に医療健康科学部に名称変更。				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) ○授業計画書の作成過程 各教員の作成後、各学科の主任、教務委員及び学部長等による内容の点検を経ている。 ○授業計画書の作成・公表時期 1 月から 2 月頃にシラバスが作成され、点検を経て、履修登録開始の約 1 週間前 (3 月下旬) までに本学 HP 等で公表している。 【全学部共通】
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) シラバスにおいて「評価方法と評価観点」の項目を置き、「定期試験またはレポート試験」、「小テスト、小論文」、「グループワーク」、「プレゼンテーション」、「レポート、宿題」、「授業での姿勢(ノート、質疑など)」、「作品、パフォーマンス(実技、実演)」といった評価方法を示し、それぞれについて、「知識・理解力」、「応用力」、「コミュニケーション力」、「態度・志向性」、「創造力」といった評価観点及び、評価割合を示している。 このように、評価方法と評価観点ごとに評価の割合をあらかじめ示し、学修成果をはかるため試験等により厳格かつ適正な単位授与を実施している。 【全学部共通】				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
工学部 (2024 年度からの 教育課程)	電気電子工学科	124 単位	有・無	44 単位
	電子機械工学科	124 単位	有・無	44 単位
	機械工学科	124 単位	有・無	44 単位
	基礎理工学科	124 単位	有・無	44 単位
情報通信工学部 (2024 年度からの 教育課程)	情報工学科	124 単位	有・無	44 単位
	通信工学科	124 単位	有・無	44 単位
建築・デザイン 学部	建築・デザイン学科	124 単位	有・無	44 単位
総合情報学部 (2024 年度からの 教育課程)	デジタルゲーム学科	124 単位	有・無	44 単位
	ゲーム&メディア学科	124 単位	有・無	44 単位
	情報学科	124 単位	有・無	44 単位
工学部 (2023 年度までの 教育課程)	電気電子工学科	128 単位	有・無	48 単位
	電子機械工学科	128 単位	有・無	48 単位
	機械工学科	128 単位	有・無	48 単位
	基礎理工学科	128 単位	有・無	48 単位
	環境科学学科	128 単位	有・無	48 単位
	建築学科	128 単位	有・無	48 単位
情報通信工学部 (2023 年度までの 教育課程)	情報工学科	128 単位	有・無	48 単位
	通信工学科	128 単位	有・無	48 単位
医療健康科学部	医療科学学科	128 単位	有・無	48 単位
	理学療法学科	128 単位	有・無	48 単位
	健康スポーツ科学学科	128 単位	有・無	48 単位
総合情報学部 (2023 年度までの 教育課程)	デジタルゲーム学科	128 単位	有・無	48 単位
	ゲーム&メディア学科	128 単位	有・無	48 単位
	情報学科	128 単位	有・無	48 単位
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：HPに掲載。
 寝屋川キャンパス：
<https://www.osakac.ac.jp/institution/campus/neyagawa/>
 四條畷キャンパス：
<https://www.osakac.ac.jp/institution/campus/shijonawate/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
工学部, 情報通信 工学部, 総合情報 学部	全学科 2019年度から の入学者	1,282,000 円	200,000 円	一円	
建築・デザ イン学部	建築・デザイン 学科	1,382,000 円	200,000 円	一円	
医療健康 科学部	医療科学科 2020年度から の入学者	1,282,000 円	200,000 円	70,000 円	その他費用 実験実習料
	理学療法学科 2020年度から の入学者	1,182,000 円	200,000 円	300,000 円	その他費用 実験実習料
	健康スポーツ 科学科 2020年度から の入学者	1,082,000 円	200,000 円	100,000 円	その他費用 実習料

備考：医療福祉工学部は、2020年4月に医療健康科学部に名称変更
 医療福祉工学科は、2020年4月に医療科学科に名称変更

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
（概要）【全学部共通】 ◆OECU MyPortal 学生ポータルサイトです。 機能一覧 ・時間割 ・お知らせ情報 ・休講情報 ・アンケート ・ポートフォリオ ・学生情報リンク ・修学支援情報 ◆OECU メール 学生専用のメールアドレスです。 ◆総合学生支援センター 総合学生支援センターは、学生のみなさんが大学での学修や学生生活で、悩んだり、困ったりした時に相談にのり、主体的に問題を解決していくための支援を行います。 障害により学修や学生生活において特別な困難をかかえている学生について、専門員が相談・支援を行います。一人で抱え込まず、まずは気軽に相談してください。 ※ ここでの障害のある学生とは、本学の学生であって、身体障害（視覚・聴覚・肢体・内部障害等）、精神障害、発達障害およびその他の心身の機能の障害のある学生をさします。相談・支援について

は、医師の診断書や身体障害者手帳・精神障害者保健福祉手帳などの手帳取得の有無などは問いません。

●障害学生の自立的学修支援に対するガイドライン(抜粋)

このガイドラインは、障害のある学生が学修上で差別を受けることなく、自立して就学できる学びの場を提供していくために、全学の指針として定めています。

1. 本ガイドラインで対象とする障害のある学生とは、本学に在籍する学部学生、大学院生、留学生および科目履修生等であって、本学において学修を進める上で、障害により特別な困難がある学生を指します。
2. 本ガイドラインで対象とする障害とは、身体障害(視覚・聴覚・肢体・内部障害等)、精神障害、発達障害およびその他の心身の機能における障害を指します。
3. 本学では、前項のような障害のある学生が何ら差別を受けることなく自立的な学修を進め、充実した学生生活を享受できるように、特別な支援を必要とするそれぞれの学生に対して、可能な限り必要な合理的配慮を行います。
4. 障害のある学生に対する支援の相談窓口を、総合学生支援センターの中に設置しています。
5. 本学に入学を希望する者で、入学後に特別の支援を必要とすることが予想される場合については、可能な合理的配慮について事前に協議することによって、必要な支援を円滑に提供します。
6. 支援を必要とする学生一人ひとりに対する個別の合理的配慮に基づく支援については、当該学生(必要な場合はその保護者を含む)、総合学生支援センターの担当教職員、学科の教員、その他関連の教職員によって適切な内容を協議した上で当該学生と教職員の合意に基づいて実施します。

◆数理科学教育研究センター

個人指導を行う、「数学質問相談室・物理質問相談室」を設置し、数学や物理の基礎科目等の授業で分からないところについて、学生一人ひとりの習熟状況に合わせた指導を行っています。

◆英語教育研究センター

全学の英語授業、および授業以外での英語学習支援を行っています。

本学英語教育研究センターでは英語学習支援室を設け、英語を苦手とする学生の皆さんをはじめ、更なる英語力向上を目指す学生の皆さんへの学習支援、および TOEIC 等の資格取得などの支援を行っています。

支援室開室時間には英語教育研究センターの教員が常駐していますので、気軽に英語に関する質問、学習方法などを相談してください。教員と相談しながら自分に合う学習方法を見つけていくこともできます。

◆自由工房

自由工房は、大阪電気通信大学がバックアップする「ものづくり」の課外活動の場です。学年や学科に関わらず誰でも参加できます。二つのキャンパスにそれぞれ活動拠点があり、各種ロボット、電気自動車、マイコン教育などのプロジェクトが活動しています。各プロジェクトでは、様々な設計や加工ができる設備が整っており、技術スタッフからいつでもアドバイスを受けることができます。参加希望者はいずれかの活動プロジェクトに所属して活動することになりますが、既存の活動以外のことにチャレンジすることも可能です。

b.進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

【全学部共通】

◆就職支援

年々早期化する就職活動に対応するため、早くから就職支援に取り組んでいます。低年次より、卒業後の進路を見据えたキャリアガイダンスを行い、さらに3年次以降就職活動の対策として実践的な就職支援講座を実施します。

●就職ガイダンス

就職部スタッフによる就職ガイダンスを実施します。各時期のトピックスや学内行事などを案内し、就職に対する意識を高めるようにします。就職活動のノウハウ提供ではなく、納得のいく進路、就職決定ができるよう、意識喚起を行います。

●就職支援講座

専門講師を招いて実践的な就職支援講座を実施します。実際に体験できるような内容で、すべての講座が原則、無料で受講ができます。学生の要望や就職環境をふまえ、主に自己分析、自己PR、エントリーシート対策、筆記試験対策、マナー・面接対策、グループディスカッション講座など基本的な講座を実施しています。具体的には、筆記試験対策では適性検査や一般常識などの問題を解説する講義形式と模擬テストを本番に近い形で実施し、エントリーシート対策では、目的や書き方から、実際にエントリーシートを記入し、添削指導、解説まで行います。

●適性検査

入学時から実施している適性検査の結果をもとに、自らの進路を考え、科目の履修計画や資格取得など、各自の目標設定やキャリア意識の向上を図ります。

2 年次以降は、学生生活を振り返り、各自の目標を見直し、自己 PR 力の養成や業界研究・職種研究に活かすために就職適性検査を行い、大学生活での成長度合いや自らの特性を客観的に見つめることができます。

●業界研究セミナー

企業の人事担当者または現場担当者を招き、講演を行います。産業界の動向など、現場の実情を知り、各業界が求める人材について理解を深め、今後目指していく方向を定めることを目標とします。

●学内企業説明会、病院説明会

本学の学生への採用意欲の高い企業や各学科の特徴に見合った企業の人事担当者を招き、両キャンパスで対面形式またはオンライン形式による説明会を開催します。3 年次 2 月から 4 年次 12 月頃まで、年間約 600 回開催します。

また、病院就職希望者（臨床工学技士、理学療法士）に対する合同病院説明会を 4 年次の 5 月から 9 月にかけて四條畷キャンパスで開催します。

●卒業生に対する就職支援

既卒者向けの求人紹介や個別相談、面接指導など各自の希望や状況に応じた支援を行います。ハローワークの活用方法についても紹介します。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

（概要）【全学部共通】

◆医務室

医務室では、病気や怪我の応急処置・医療機関の案内・健康相談などを行っています。

◆総合学生支援センター

総合学生支援センターは、学生のみなさんが大学での学修や学生生活で、悩んだり、困ったりした時に相談にのり、主体的に問題を解決していくための支援を行います。

大学生活で出会うさまざまな問題や悩みについて、共に考え、学生自身が主体的に解決していくための支援を行っており、心理カウンセラーが対応します。

こんなときは気軽に相談してください。

- ・自分の生き方や将来について不安になった
- ・友人関係がうまくいかない
- ・下宿や家庭での生活がどうもうまくいかない
- ・性のことで悩んでいる
- ・周囲の目が気になる

- ・授業についていけない
- ・悪徳商法にひっかかった

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：HPに掲載。<https://www.osakac.ac.jp/about/educational-information/ir/>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A 4 とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F127310108045
学校名（〇〇大学 等）	大阪電気通信大学
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人大阪電気通信大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		853 人	828 人	896 人
内 訳	第Ⅰ区分	519 人	500 人	
	第Ⅱ区分	215 人	221 人	
	第Ⅲ区分	119 人	107 人	
	第Ⅳ区分	0 人	0 人	
家計急変による支援対象者（年間）				一人
合計（年間）				899人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（1）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

（2）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	20 人	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下）	一 人	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	20 人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	26 人	人	人
計	64 人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（2）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	一 人	前半期	人	後半期	人

（3）退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0 人
3月以上の停学	0 人
年間計	0 人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	一人
(備考) 年間計には、適格認定における学業成績の判定の結果、2回連続で「警告」となった場合のうち、2回目の「警告」がGPA等が学部等における下位4分の1の範囲に属したことにより「停止」となった者を含む。	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下）	一人	人	人
GPA等が下位4分の1	70人	人	人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	109人	人	人
計	134人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。